

スーパージグザグ819

ジャノメ

電子エフセル 22DX



گلدوخت

آموزش، نقد و بررسی ماشین آلات دوخت و برش

دفترچه راهنمای چرخ خیاطی

ژانومه مدل 819

تدوین شده توسط گروه گلدوخت جهت

تسهیل استفاده برای مخطبان عزیز

PDF
 بصورت



www.golldookht.com



#golldookht



@golldookht

ごあいさつ

この度は、スーパージグザグミシン「ジャノメ・電子エクセル22DX」をお買い上げ頂きましてありがとうございます。

「ジャノメ・電子エクセル22DX」は、ミシン専業メーカーのジャノメが、60余年の豊かな経験と技術の蓄積から開発した高級ミシンです。

最新の生産技術を備えた工場で、厳しい品質管理を経てお客様にお届け致しました。

また、全国500余のジャノメミシン直営支店で、毎月ミシンの使い方教室やホームソーイングのための教室も開講して、ミシンを楽しく使っていただくためのサービスを行っています。

品質面でも、サービス面でも安心してお使いいただけるミシンです。末永くご愛用され素敵な手作りライフをお楽しみください。

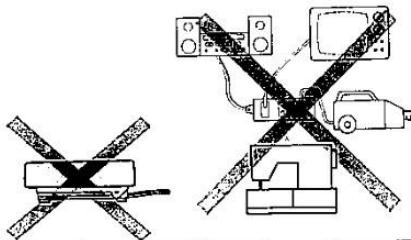
なお、ご使用に際しましては、この「使い方の手引き」をよくお読みになり、正しくお使いください。



●おとり扱いについてのお願い

★より安全のために……

- ①ミシンを動かしているとき、針から目をはなさないように注意し、はずみ車、天びん、針などに手を触れないでください。
- ②つぎのようなときは、必ず電源スイッチを切り、コンセントから電源プラグを抜いてください。
 - 使用後 ■ミシンのそばをはなれるとき
 - 部品をつけたり、はずしたりするとき
 - ミシンの手入れをするとき
- ③コントローラーの上には、物をのせないでください。
- ④たこ足配線は、危険ですからやめましょう。



★ご使用の前に……

- ①ほこりや油などで布を汚さないように、使う前にミシンをよくふいてください。
- ②ミシンのセットや、押え、針を交換するときには、この《使い方の手びき》や早見板を見て、正しく、確実にセットしてください。
- ③ミシンをセットしたら、実際に縫うものと同じ布や糸で試し縫いをしてみましょう。

★いつまでもご愛用いただくために……

- ①長時間日光にあてたり、ストーブのそばに置いたりしないでください。
- ②湿気の多いところはさけてください。
- ③落としたり、ぶつけるなど衝撃を与えないでください。

●修理、調整についてのご案内

万一不調になつたり、故障を生じたときは、「ミシンの調子が悪いときの直し方」(49~51ページ)により点検・調整を行なつてください。それでも調子が悪いときは、お買い上げいただいた支店、または近くの支店へご連絡ください。

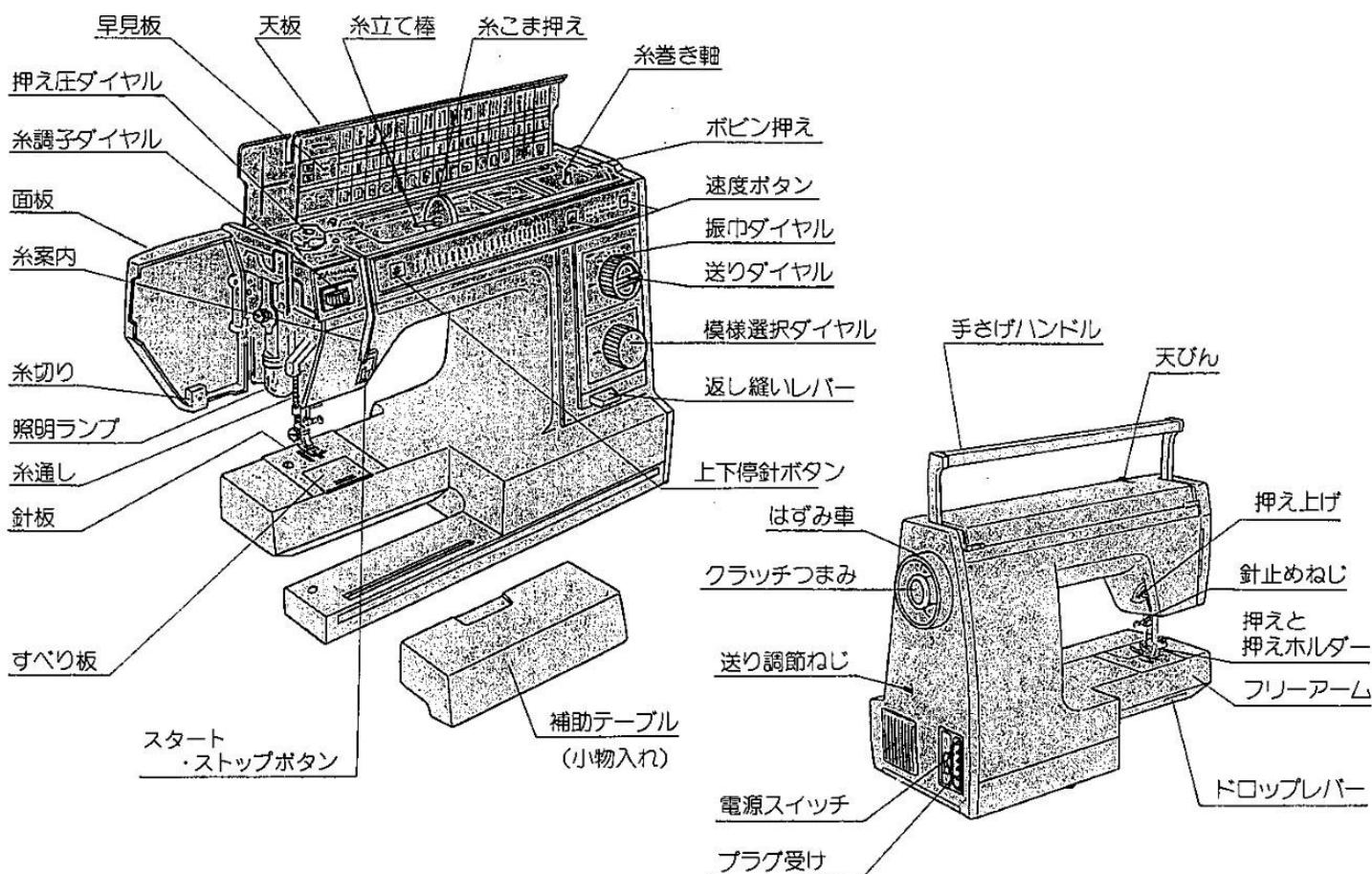
○このミシンは、日本国内用に作られていますので、外国では使用できません。

(This sewing machine can not be used in foreign country as designed for Japan only.)

目次

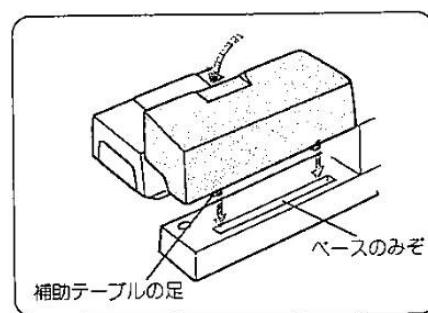
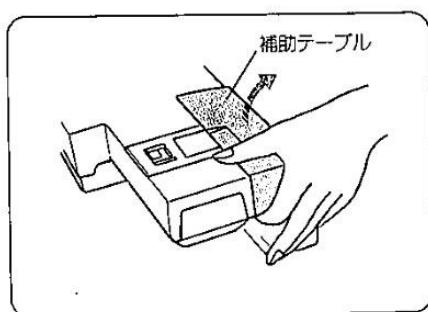
● 各部の名まえ	4	● 送りダイヤル	19		
● 補助テーブルのはずし方、つけ方	5	● 振巾ダイヤル	20		
● 小物入れ	5	● 直線縫いの針落ち	20		
● 押えと付属品	6	● 直線縫い	21~22		
操作をおぼえましょう					
● 電源をつなぎましょう	7	★ 縫いはじめ	21		
★ コントローラーを使用する場合	7	★ 縫い方向をかえるには	21		
★ スタート・ストップボタンを使用する場合	7	★ 縫いおわり	22		
● スタート・ストップボタン	8	★ 厚手の布端の縫いはじめ	22		
● 速度の調節になれましょう	8	● 押え圧ダイヤル	23		
● 上下停針ボタン	9	● ドロップレバーの使い方	23		
● 照明ランプ	9	● 押えのとりかえ	24		
● 下糸の準備をしましょう	10~12	● 針のとりかえ	25		
★ ポビンをとり出します	10	実用縫いいろいろ			
★ 糸こまをとりつけます	10	● ジグザグ縫い	26		
★ ポビンに糸を巻きます	11	● ジグザグ縫い裁ち目かがり	26		
★ ポビンをかまにセットします	12	● かがり縫いステッチ	27		
● 上糸の準備をしましょう	13~16	● トリコット縫い裁ち目かがり	27		
★ 上糸を掛けます	13	● 直線三重縫い	28		
★ 糸通しを使って針に糸を通します	14~15	● ボタン穴かがり(ボタンホール)	29~30		
★ 下糸を引きあげます	16	● 芯入りボタン穴かがり	31		
● 布に適した糸や針を選ぶ目安	17	● ボタンつけ	32		
● 糸調子を合わせましょう	18	● ファスナーつけ	33~36		
● 模様選択ダイヤル	19	★ ファスナー押えのつけ方	33		
★ 準備	33	★ 準備	33		
応用縫いいろいろ					
● ★ 縫い方	34~35	ミシンの手入れと調整			
● ★ コンシールファスナーつけ	35~36	● かまの掃除	46	● かまの掃除	46
● 三つ巻き縫い	37~38	● かまの分解	47	● かまの分解	47
● くけ縫い(まつり縫い)	39	● かまと送り歯の掃除	47	● かまと送り歯の掃除	47
● 密着模様縫い	40	● かまの組立て	48	● かまの組立て	48
● スーパー模様縫い	40	● 電球のとりかえ	48	● 電球のとりかえ	48
● スーパー模様の形の整え方	41	● ミシンの調子が悪いときの直し方	49~51	● ミシンの調子が悪いときの直し方	49~51

●各部の名まえ

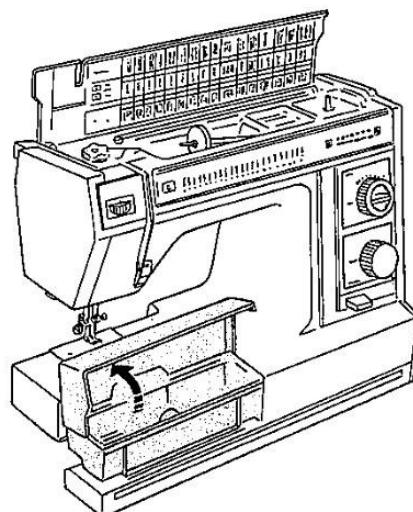


4

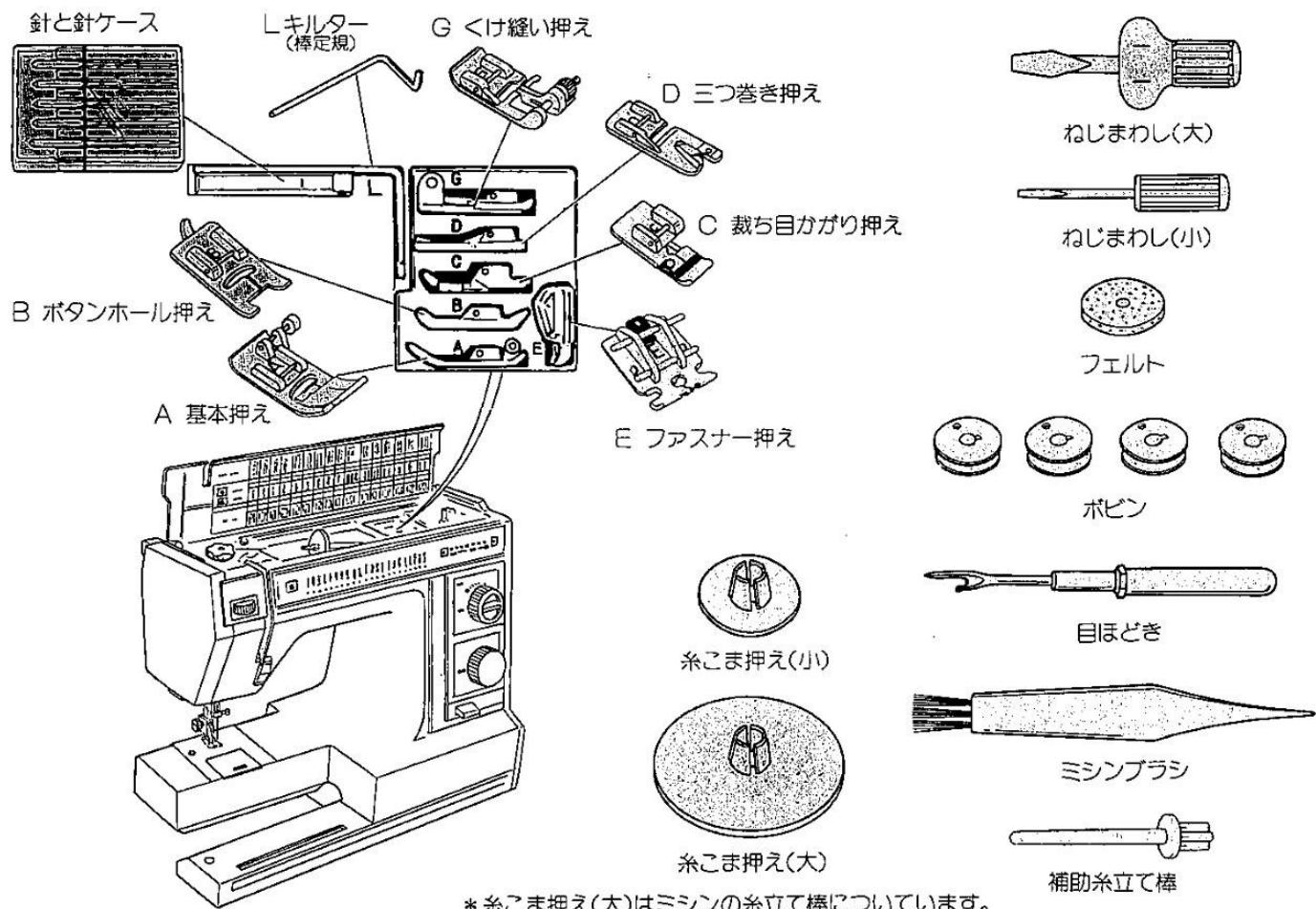
●補助テーブルのはずし方、つけ方



●小物入れ



●押えと付属品

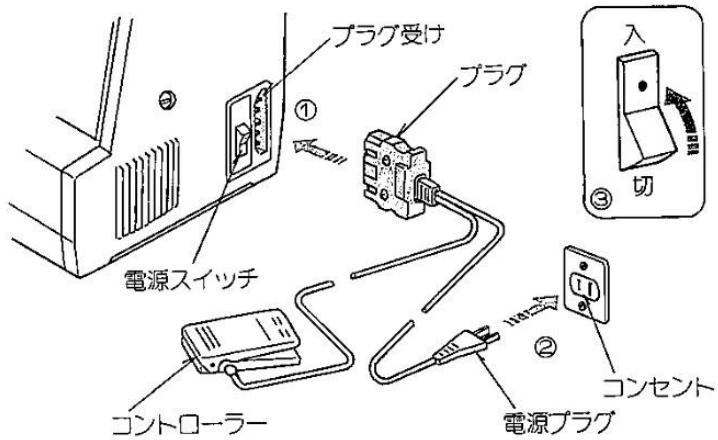


6

●電源をつなぎましょう

★コントローラーを使用する場合

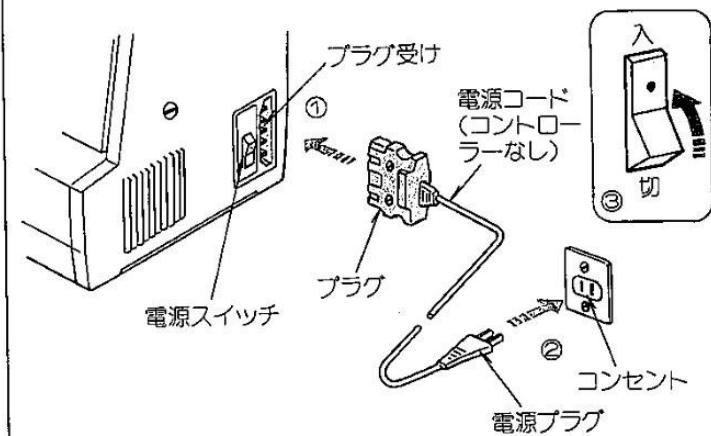
○コントローラーのついた電源コードを使用します。



*コントローラーのついた電源コードを使用するときは、スタート・ストップボタンを押してもミシンは動きません。

★スタート・ストップボタンを使用する場合

○コントローラーなしの電源コードを使用します。



①電源スイッチを「切」にして、プラグをプラグ受けにさしこみます。

②電源プラグをコンセントにさしこみます。

③スイッチを「入」にします。

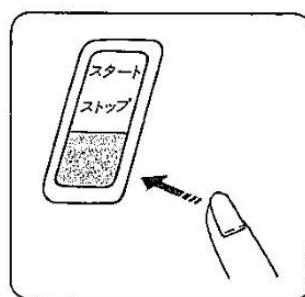
*電源は、一般家庭用(100V 50/60Hz)です。

*ミシンを使わないときは、電源プラグを抜いてください。

操作をおぼえました

●スタート・ストップボタン

○コントローラーのついた電源コードを使用するときは、スタート・ストップボタンを押してもミシンは動きません。



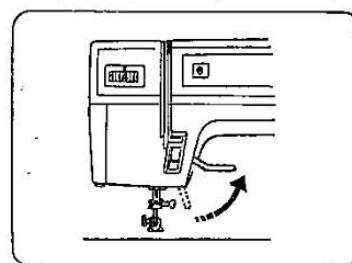
- ボタンを押すと、ミシンは動きはじめます。
- *ボタンを押している間ミシンはゆっくり動きります。
- もう一度押すと、針が上の位置で止まります。

*ミシンが動いている間に、電源プラグが抜けるなどして電源が切れたときは、再び電源を入れてもミシンは動きません。

もう一度スタート・ストップボタンを押してください。

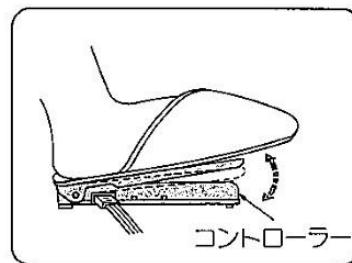
●速度の調節になれましょう

○押えをあげて、コントローラーや速度ボタンと速さの関係になれてください。



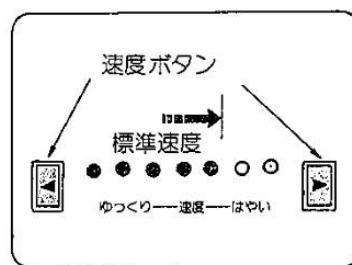
★コントローラー

○コントローラーは、深く踏みこむほど速くなります。

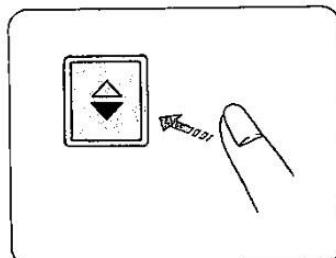


★速度ボタン

○電源を入れると、標準速度に自動セットされます。
○速度ボタンを押すと、速度が変化します。



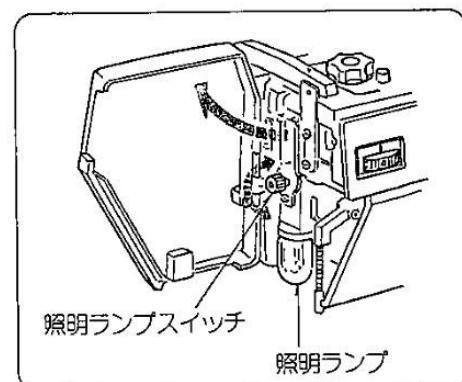
●上下停針ボタン



- ミシンが止まっているとき、ボタンを押すと、針が上位置から下位置に切りかわります。
- もう1度押すと、上位置に切りかわります。

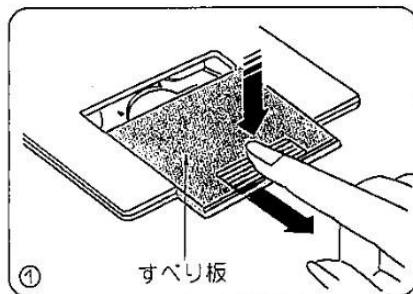
●照明ランプ

照明ランプの点滅は、スイッチをまわします。



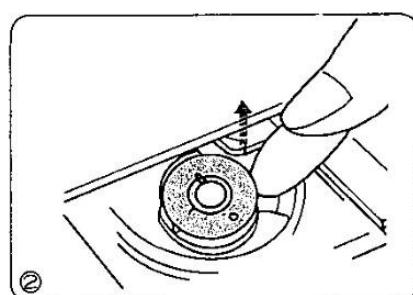
*安全のために、ランプは、とりつけたままにしてください。

●下糸の準備をしましょう



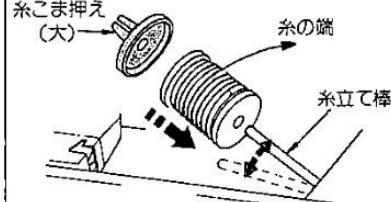
★ボビンを取り出します

①すべり板を下に押し
ながら手前に引きま
す。

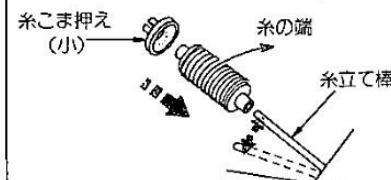


②ボビンを取り出しま
す。

《普通の糸こまのとき》



《小さい糸こまのとき》

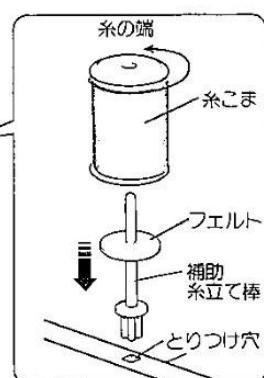
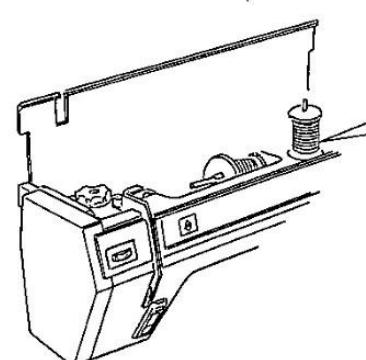


★糸こまを とりつけます

糸立て棒を軽くおこし
糸の端が向こう側に出
るようにして糸こまを
入れます。

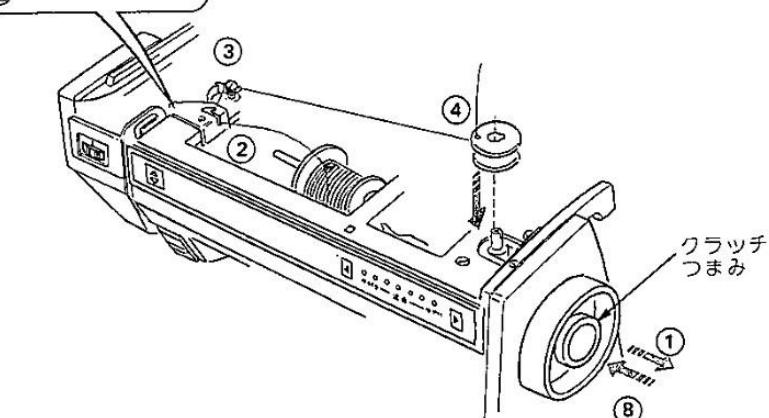
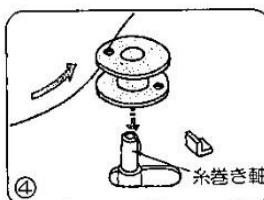
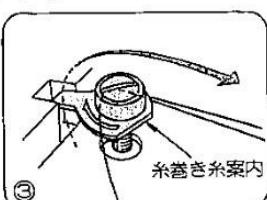
糸こま押えで糸こまを
おさえたら、糸立て棒
をもとに戻します。

*補助糸立て棒を使う
ときは、とりつけ穴
に立てて、糸こまを
とりつけます。



10

★ボビンに糸を巻きます



①クラッチつまみを引き出します。

②糸こまから引き出した糸を、天板糸案内に押
つけるようにして、掛けます。

③糸巻き糸案内に糸を掛けます。

④ボビンの穴に内側から糸を通し、糸巻き軸にさ
しこみます。

⑤ボビンを、ボビン押えの方に押しつけます。

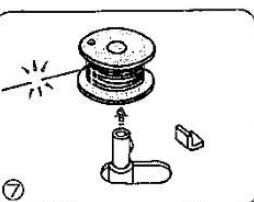
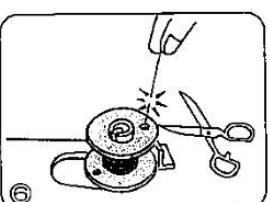
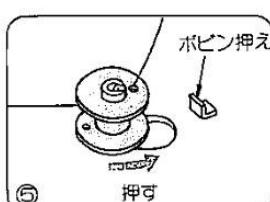
*糸巻き軸の移動は、必ずミシンを止めてから行
なってください。

*糸巻き軸がボビン押えの方に押しつけられて糸
巻き状態になっているときは、速度表示の右端
のシグナルが点滅します。

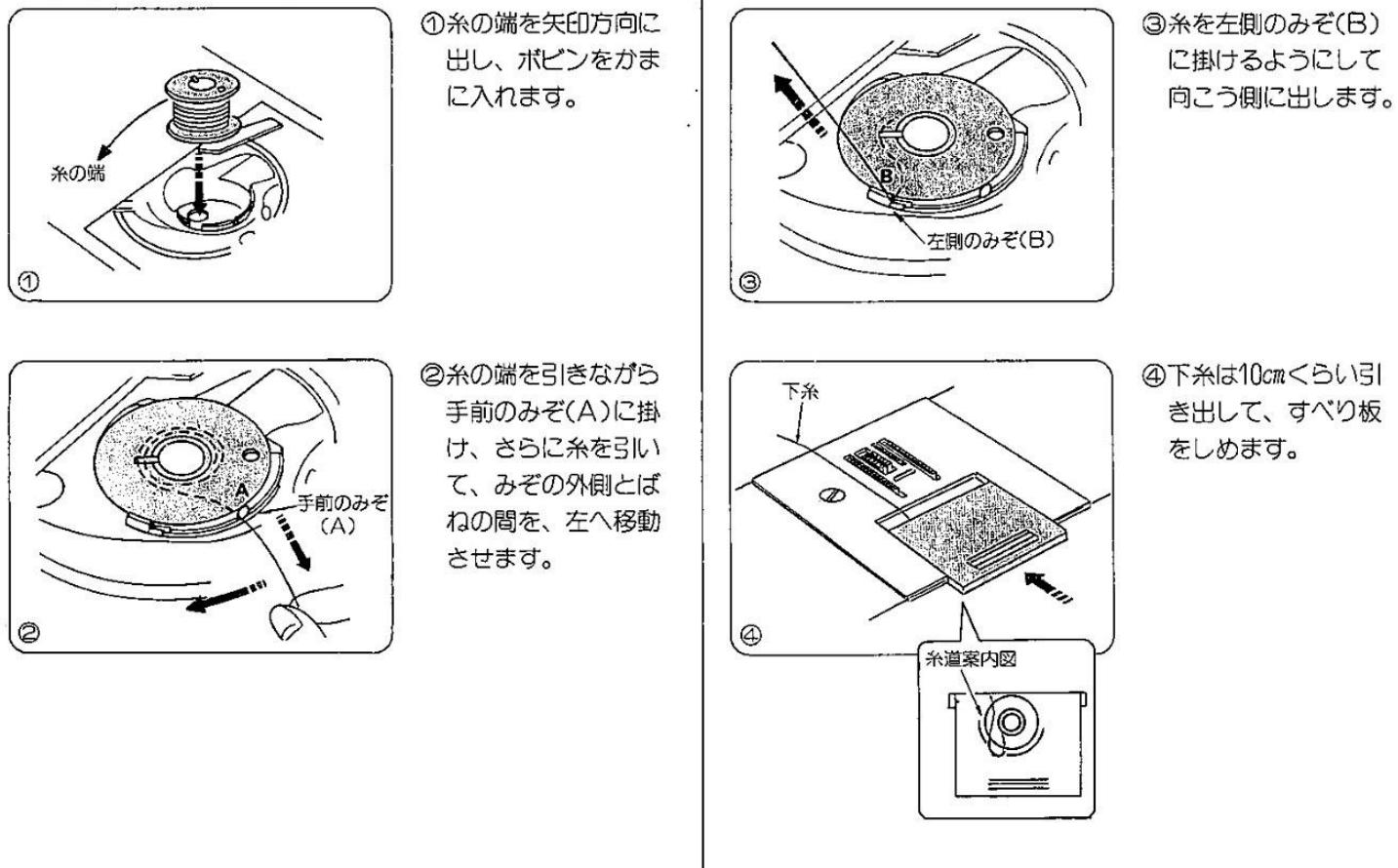
⑥糸の端をつまんだまま、コントローラーを軽く
踏みはじめます。ボビンに糸が三重ぐらい巻き
ついたら、いつたん踏みこみを止めて糸を切り
ます。

⑦コントローラーをふたたび踏んで、巻きあわつ
たらボビンをもとに戻し、糸巻き軸よりはずし
て糸を切ります。

⑧クラッチつまみを押しこみます。



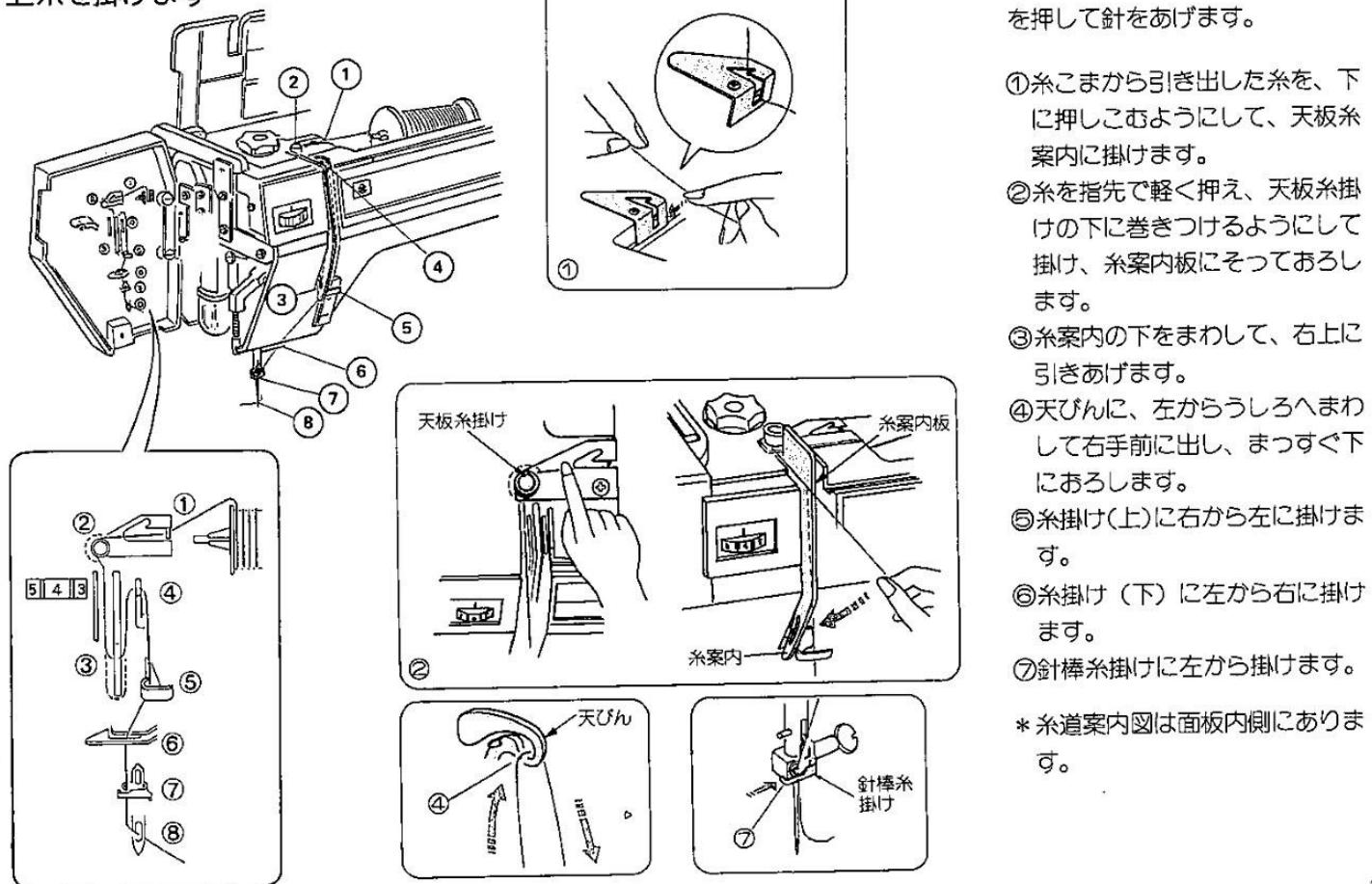
★ボビンをかまにセットします



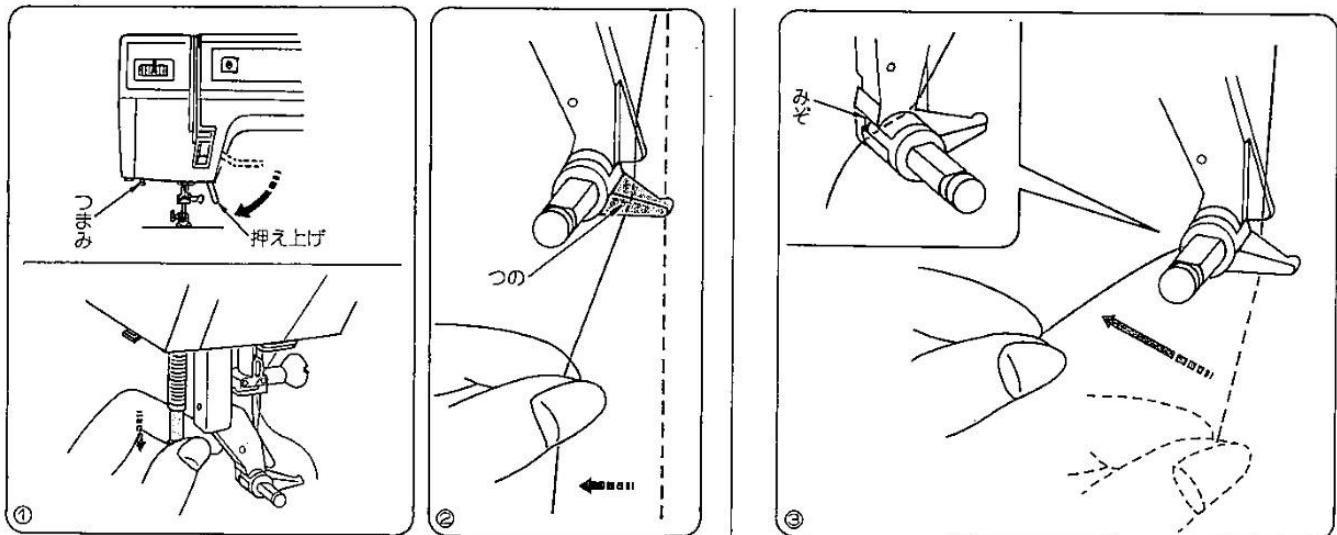
12

●上糸の準備をしましよう

★上糸を掛けます



★糸通しを使って針に糸を通します



①押え上げをさげます。糸通しのつまみを、止まるまでいつぱいに、引きさげます。

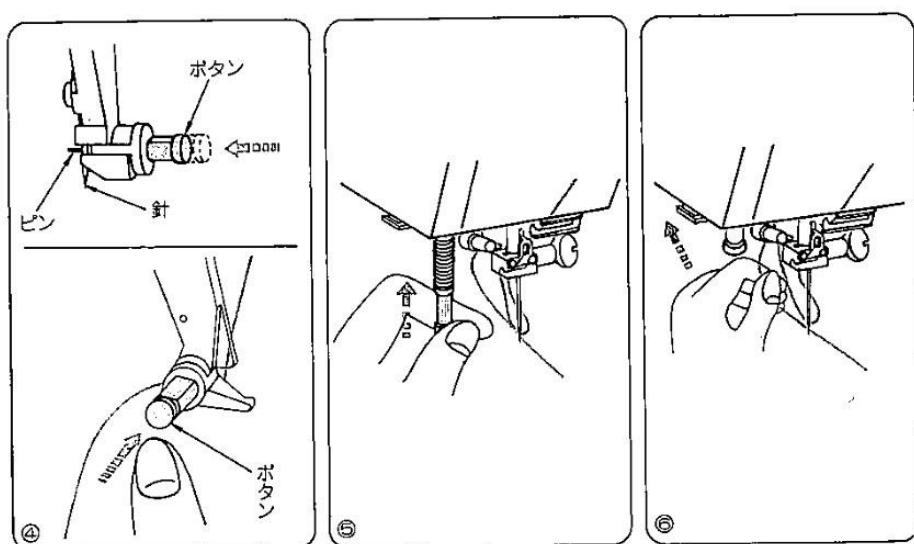
*針があがっていることを確かめましょう。

②糸を、つの向こう側に掛けて、左にすべらせます。

*針は、11番～16番、ジャノメブルー針、糸は50～100番が使えます。

③左手前に引きながら、裏側のみぞに入れ、糸の端を手前にたらします。

14



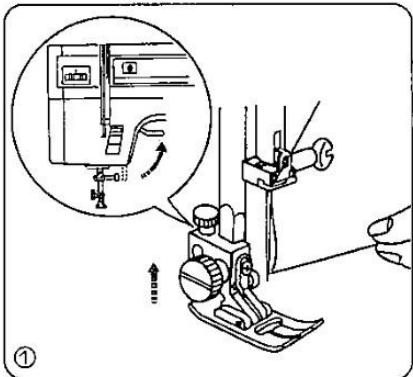
④ボタンを静かに、いっぱいまで押して指をはなします。

*ピンが針にあたって、うまく針穴に入っていないときは、無理にボタンを押さないで①からやり直してください。

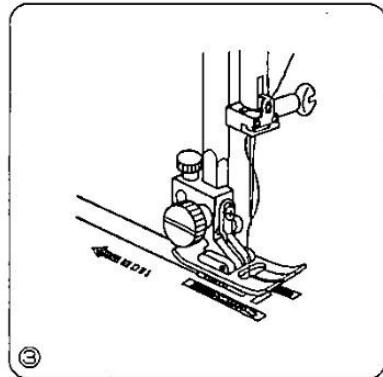
⑤つまみを静かに押しあげ、糸の輪を引きあげます。

⑥糸の輪を上方に引きあげるようにして、糸通しからはずし、針穴から糸の端を引き出します。

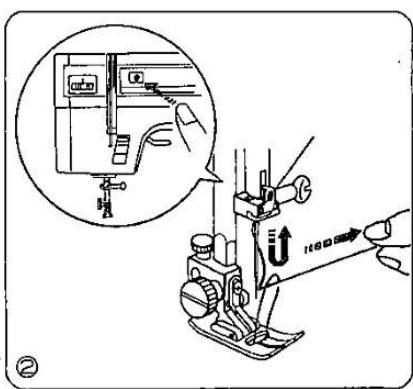
★下糸を引きあげます



①押え上げをあげ、左手で上糸の端をつまんで、ややゆるめて持ちます。



③上糸と下糸を、押えの下から向こう側に10cmほど引き出して、そろえておきます。



②上下停針ボタンを2度押して、針をあげます。上糸を軽く引くと、下糸の輪が引き出されます。

●布に適した糸や針を選ぶ目安

布の厚さ	布の種類				糸	針
	木綿	絹	ウール・化繊織物	ニット		
うすい布	ローン、ポイル	シフォン、ジョーゼット、オーガンジー	デシン、クレープ、モスリン	シングルニット地、トリコット地	絹糸 80番~100番 綿糸 80番~100番 化繊糸 80番~100番	9番~11番
普通の布	プロード、サッカーピケ	タフタ、ファイユ、サテン	ジョーゼット、フラン、サキソニー	ジャガードニット	絹糸 50番 綿糸 60番~80番 化繊糸 50番~80番	11番~14番
					綿糸 50番	14番
厚い布	デニム、キルティング地、ギャバジン	ツィード、ギャバジン、コート地	ダブルニット	絹糸 50番 綿糸 40番~50番 化繊糸 40番~50番		14番~16番
					絹糸 30番 綿糸 30番	16番

* ふつう上糸と下糸は同じ糸を使います。

* うすい布には細い糸と針、厚い布には太い糸と針を使うのが原則です。

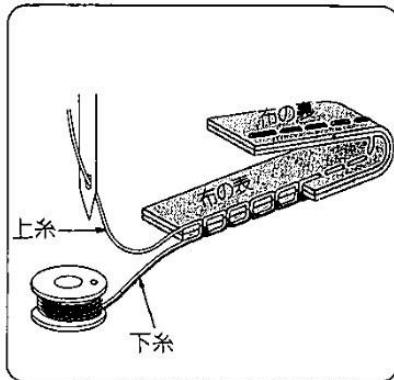
* ごくうすい布には、下に紙をしいて縫ってください。

* 糸や針は、実際に縫う布の端切れを使って、試し縫いをして確かめてみましょう。

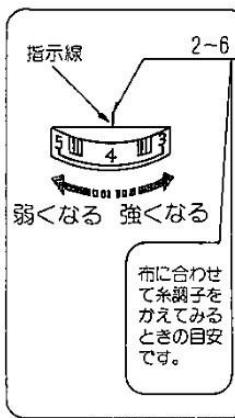
* ジャノメブルー針は、柄の部分が青色をしています。伸縮性のある布（ジャージー、トリコット）や、目とびしやすい布に効果があります。

●糸調子を合わせましょう

★正しい糸調子



上糸と下糸が布のほぼ中央で、まじわります。

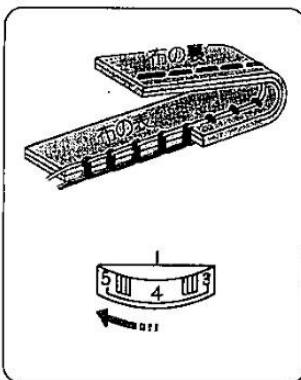


素材や縫い方によって、糸調子ダイヤルをまわして調整します。

糸調子が正しく調整されていないと、縫い目がきたくなり、布にしわがよつたり、糸が切れたりします。

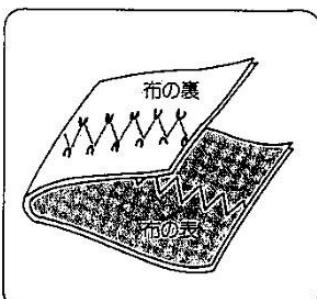
*糸調子は、それぞれの、《ミシンのセット》にその目安を示してあります。

★上糸が強すぎるとき



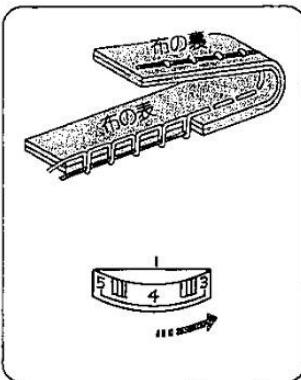
下糸が布の表に出るので、ダイヤルを小さな目盛に合わせて、上糸調子を弱めます。

《ジグザグ縫いの糸調子》



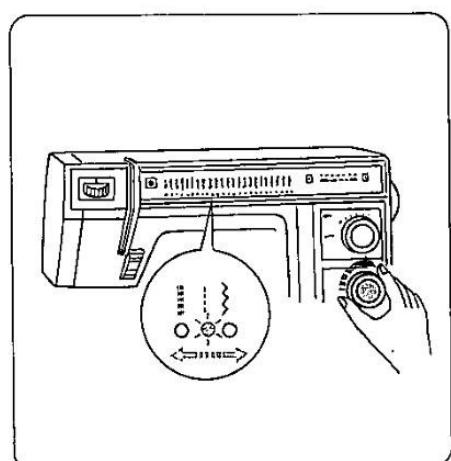
ジグザグ縫いの糸調子は、布の裏側に上糸が少し出るくらいに調節します。

★上糸が弱すぎるとき



上糸が布の裏に出るので、ダイヤルを大きな目盛に合わせて、上糸調子を強めます。

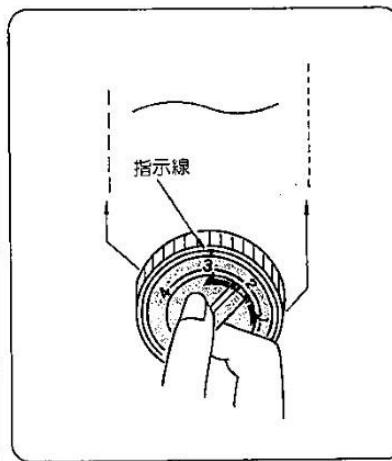
●模様選択ダイヤル



○ダイヤルをまわして、選んだ模様に赤いシグナルを合わせます。

*模様選択ダイヤルをまわすときは、布から針をあげてください。

●送りダイヤル

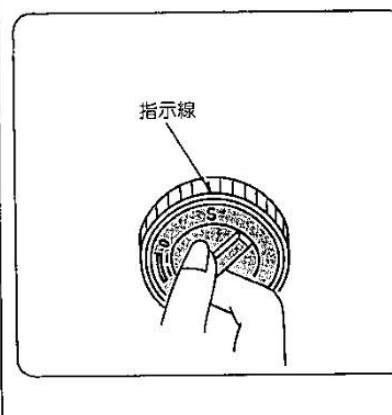
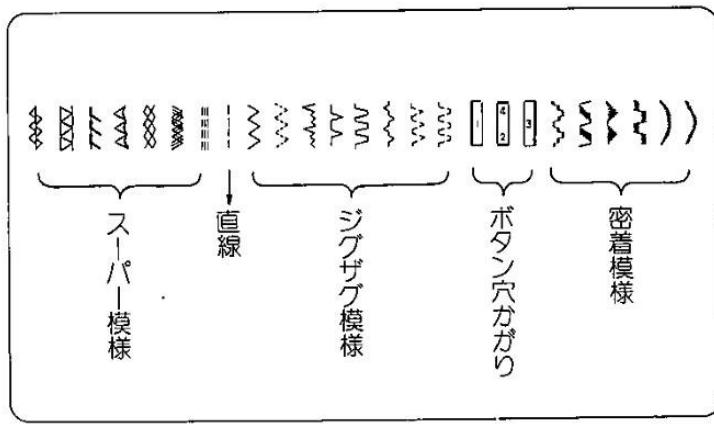


○ダイヤルをまわして、目盛りを指示線に合わせます。

○目盛りが大きくなると縫い目はあらくなります。

○—は、ボタン穴がありの縫い目あらさの調節範囲を示します。

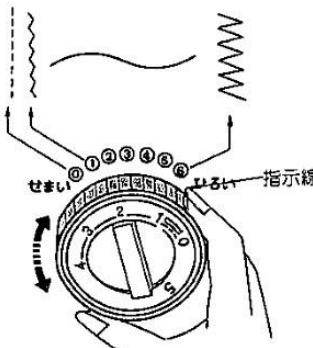
○ジグザグ模様縫いのときは、ダイヤルを0.3~4の範囲で調節できます。



○スーパー模様縫い（模様）のときは、ダイヤルをSに合わせます。

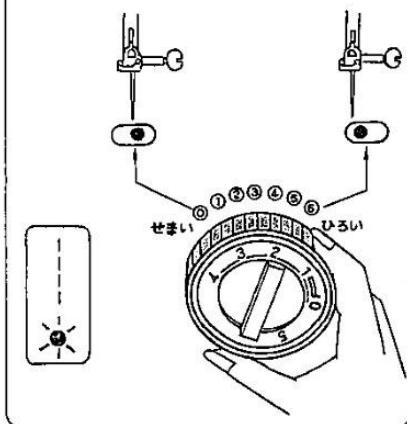
●振巾ダイヤル

●直線縫いの針落ち



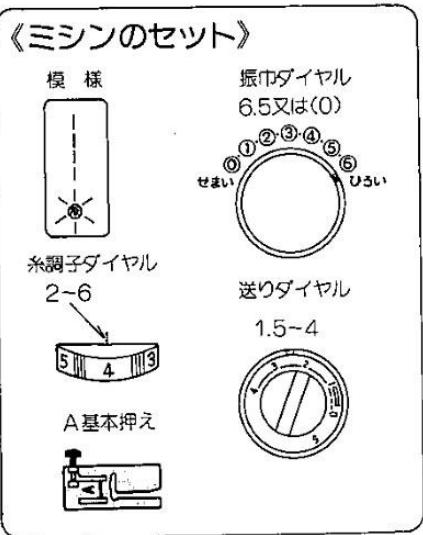
ダイヤルをまわして、指示線を目盛りに合わせます。目盛りが大きくなると、縫い目の巾は大きくなります。

* 振巾ダイヤルをまわすときは、布から針をあげてください。

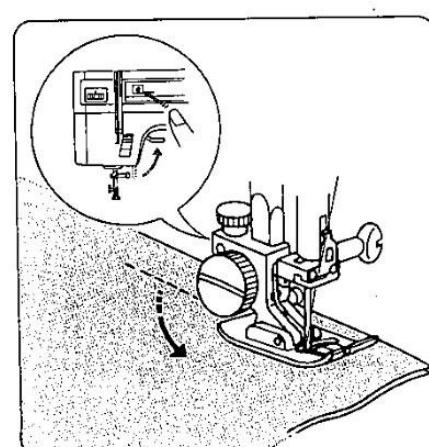


模様を選んで、振巾ダイヤルをまわすと、直線縫いの針落ちは、中(○)と左(○)の間でかえることができます。

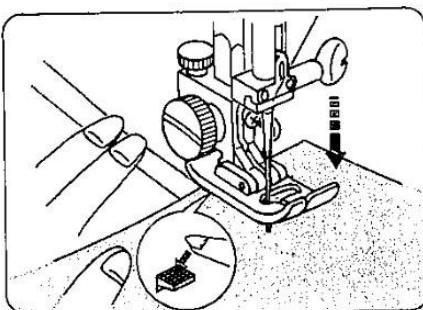
●直線縫い



* 振巾ダイヤルを 6.5 に合わせると、針落ちは左(○)に、0 に合わせると、中(○)になります。



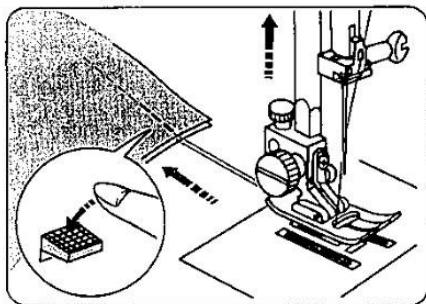
★ 縫い方向をかえるには
ミシンを止め、上下停針ボタンを押して針を布にさし、押え上げをあげます。針を布にさしたまま、縫い方向をかえます。



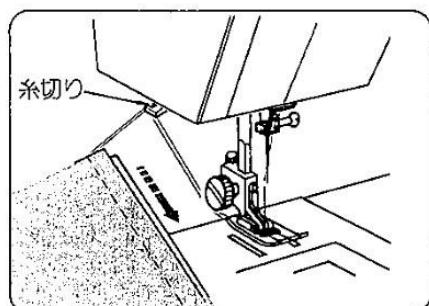
★ 縫いはじめ

糸と布を左手で押え、はずみ車を手前にまわして、縫いはじめの位置に針をさします。押え上げをさげて、コントローラーを軽く踏み、ゆっくり縫いはじめます。

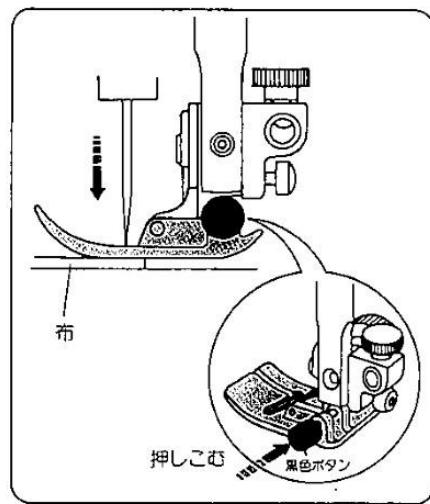
* 縫いはじめのほつれ止めは、返し縫いレバーを押しながら數針返し縫いをします。



★縫いおわり
返し縫いレバーを押しながら数針返し縫いをします。
押え上げをあげて、布を向こう側に静かに引き出します。



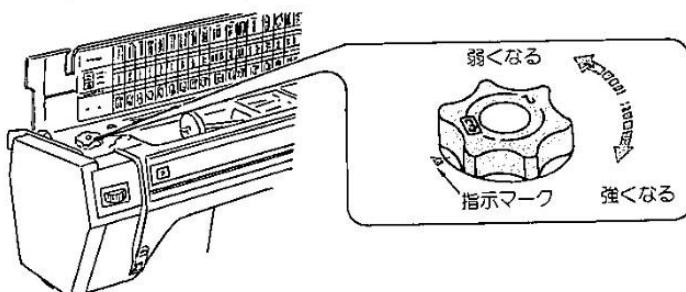
糸切りで糸を切れます。



- ★厚手の布端の縫いはじめ**
- ①縫いはじめの位置に針をさし、基本抑えの黒色ボタンを押しこみます。
 - ②ボタンを押したままで押え上げをさげます。
 - ③ボタンから手をはなし、縫いはじめます。

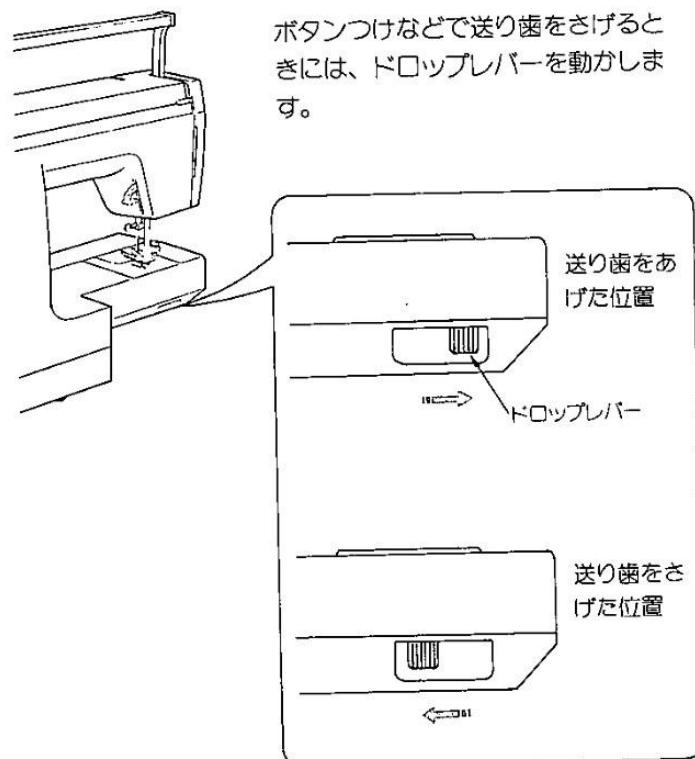
22

●押え圧ダイヤル



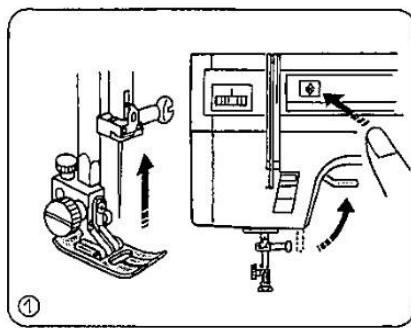
- 普通縫いのときは.....「3」
- うす手の化繊地や
伸縮性のある布など
で縫いずれがする
とき、または、
アップリケなど縫
いしろ部分が重な
り合うとき.....「2」または「1」

●ドロップレバーの使い方

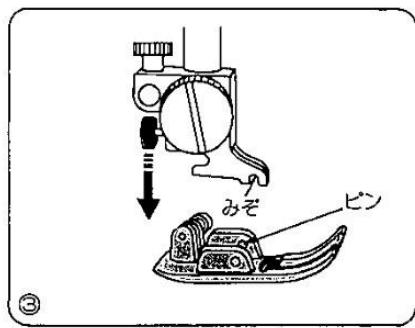


ボタンつけなどで送り歯をさげるときには、ドロップレバーを動かします。

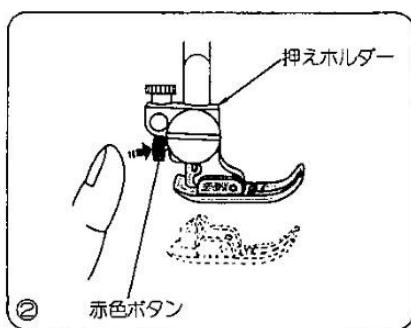
●押えのとりかえ



①上下停針ボタンを押して針をあげ、押え上げをあげます。



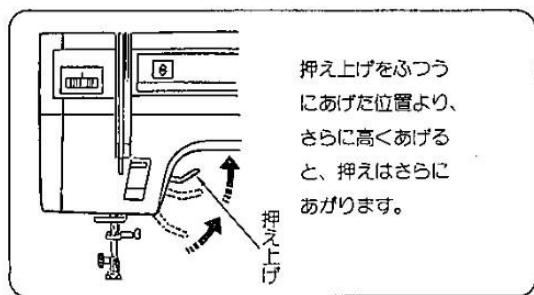
③押えのピンを抑えホルダーのみぞの真下において、押え上げを静かにあろします。



②押えホルダーの赤色ボタンを押して、押えをはずします。

*ファスナー押えのつけ方は、ファスナーツ(33ページ)をごらんください。

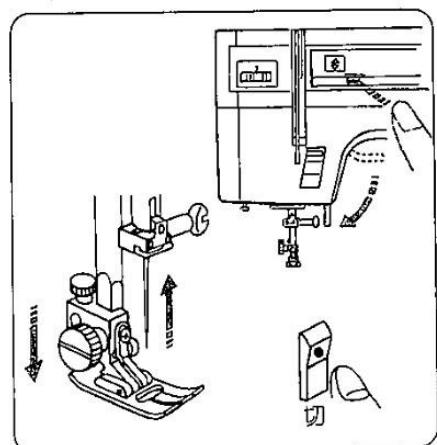
《厚い布を入れるとき》



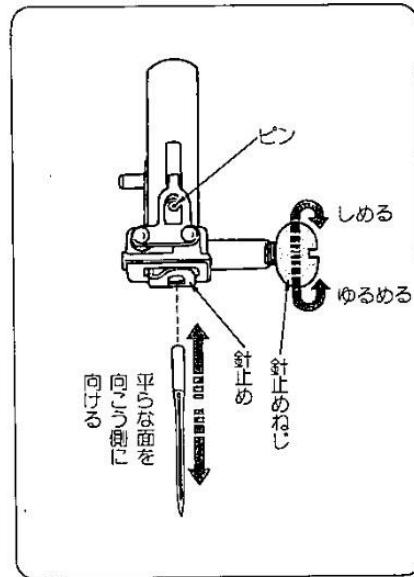
押え上げをふつうにあげた位置より、さらに高くあげると、押えはさらにあがります。

24

●針のとりかえ

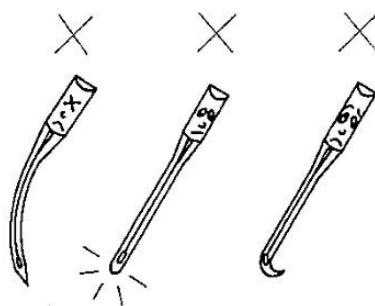


- 上下停針ボタンを押して針をあげ、押え上げをさげます。
- 電源スイッチを切れます。



○針止めねじを手前にまわしてゆるめ、針をはずします。

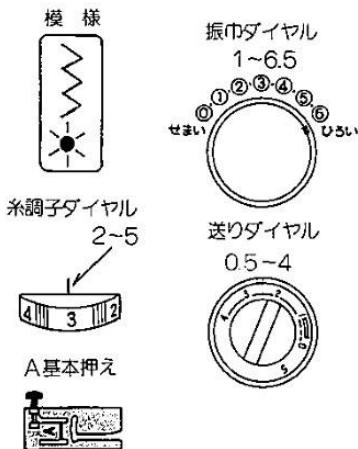
○針の平らな面を向こう側に向けて、奥いづらいにピンにあたるまで針止めにさしこんで針止めねじをかたくしめます。



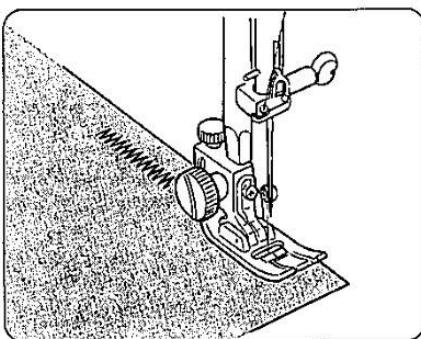
*全体にまがってしまったものや、針先のつぶれたりまがつたりしたものは、使用しないでください。

●ジグザグ縫い

《ミシンのセット》



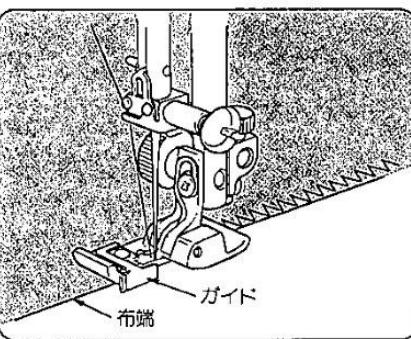
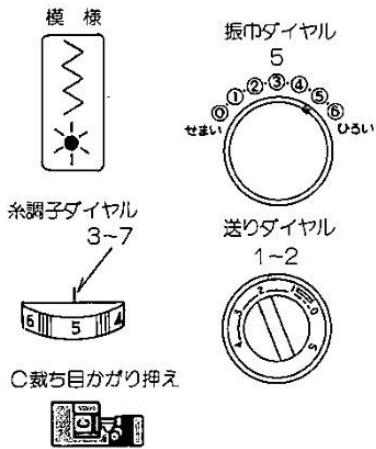
* 振巾ダイヤルをまわすときは、針を布からあげてください。



振巾ダイヤルで縫い目の巾を、送りダイヤルで縫い目のあらさを調節して縫います。

●ジグザグ縫い裁ち目かぎり

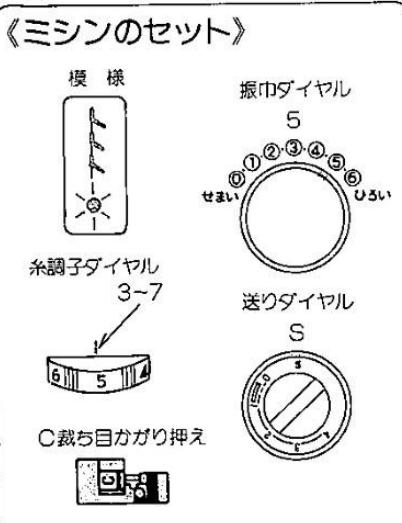
《ミシンのセット》



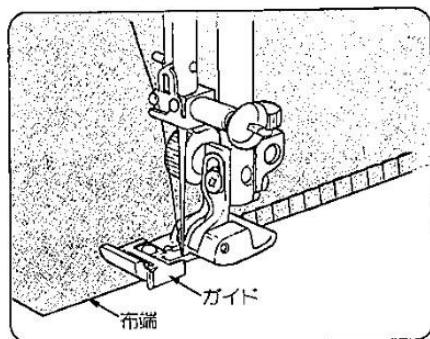
布端のほつれ止めとして広く利用します。

布端を裁ち目かぎり押えのガイドにあてて縫います。

●かぎり縫いステッチ



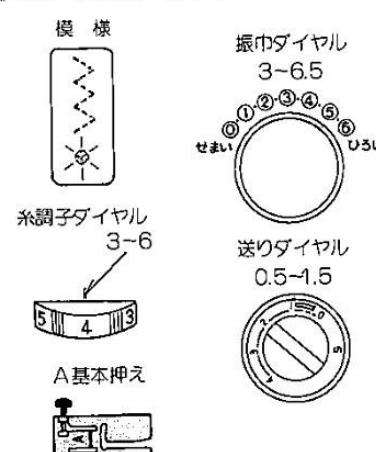
地縫いをかねたかぎり縫いに利用します。また、布端のほつれ止めとしても使えます。



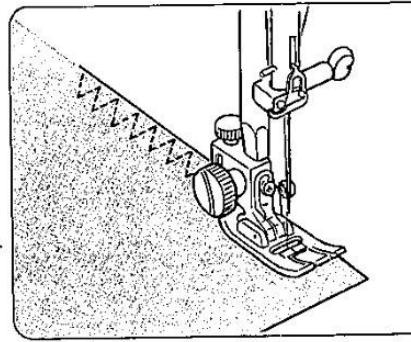
布端を裁ち目かぎり押えのガイドにあてて縫います。

●トリコット縫い裁ち目かぎり

《ミシンのセット》



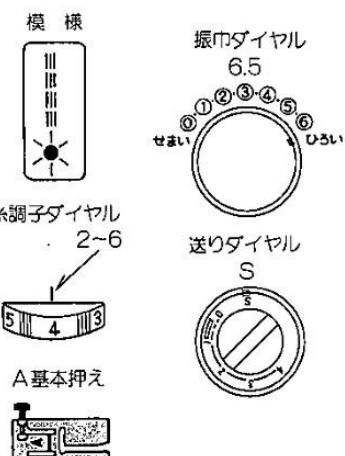
ほつれやすい布や伸縮性のある布のほつれ止め、布端の返り防止などに利用します。



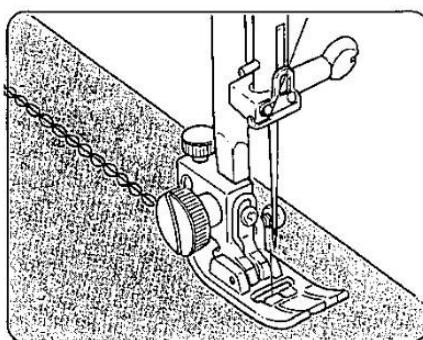
布端を押さえの右端よりやや内側にし、織り糸を1~2本残すようにして縫います。

●直線三重縫い

〈ミシンのセット〉



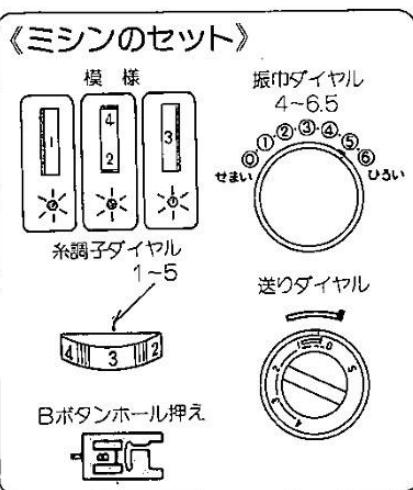
伸縮性のある強い縫い目なので、補強縫いに便利です。



布が前後するので縫い目がまがらないように注意して縫います。

28

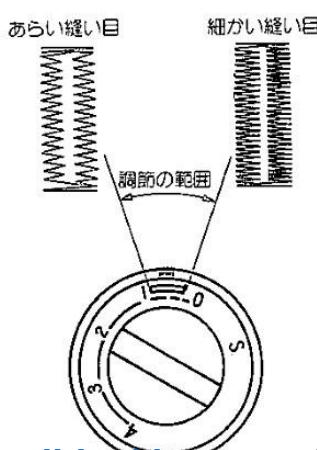
●ボタン穴かがり(ボタンホール)



○縫うものと同じ布で試し縫いをして、セットを確かめましょう。

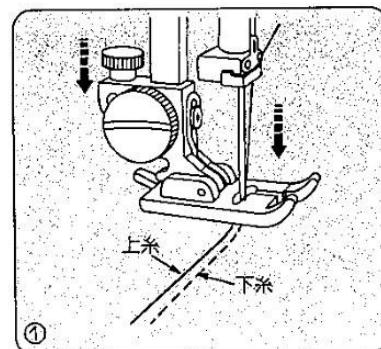
○伸縮性のある厚手の布や、やわらかい厚手の布(ジャージー、ツイードなど)は、押え圧ダイヤルを「2」にするときれいに仕上がります。

○伸縮性のある布には伸びにくい芯地をはってください。



〈縫い目あらさの調節〉

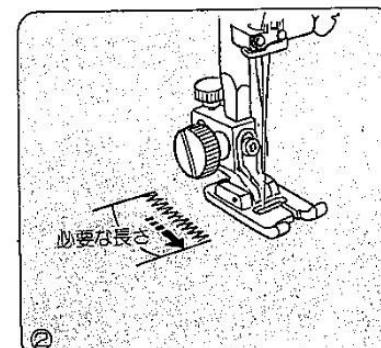
ボタン穴かがりの縫い目のあらさは、の範囲で調節します。



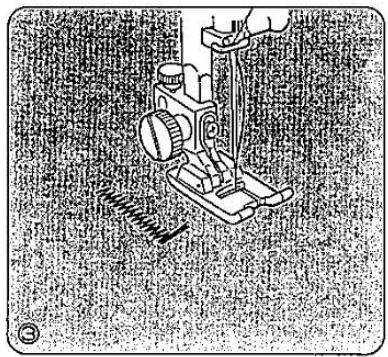
①模様 を選びます。

上糸と下糸を横に引き出してそろえます。

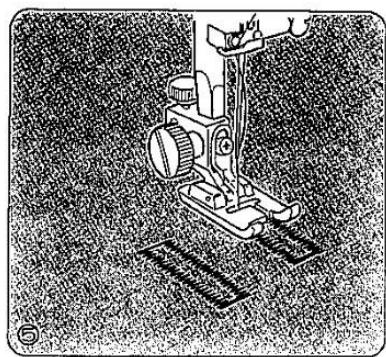
縫いはじめの位置に針をさして、押え上げをさげます。



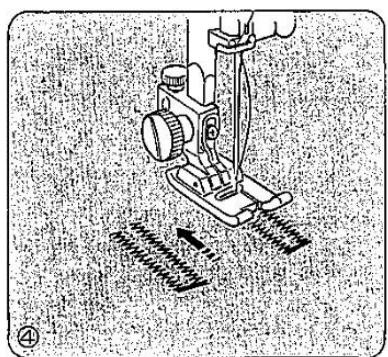
②左側を必要な長さまで縫つたら、ミシンを止めます。



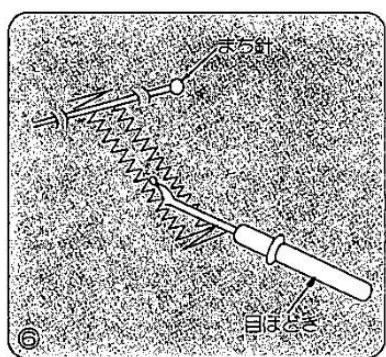
③模様 を選びます。
かんぬきを5針くらい縫い、ミシンを止めます。



⑤模様 を選びます。
かんぬきを5針くらい縫い、ミシンを止めます。
押え上げをあげて布を引き出し、上糸・下糸を10cmくらい残して切ります。下糸を引いて上糸を布の裏に引き出し、上糸と下糸をむすびます。

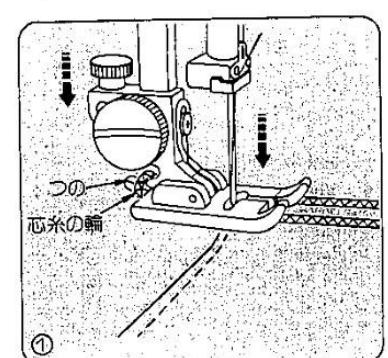
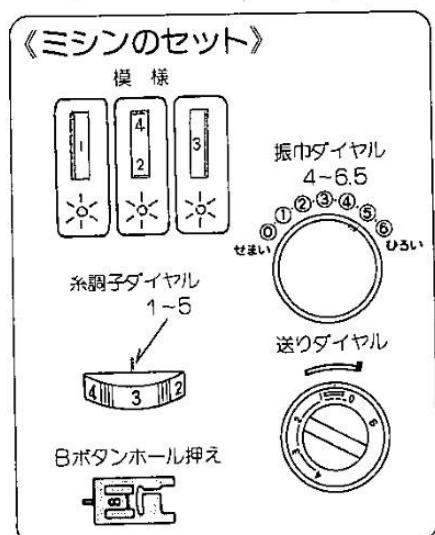


④模様 を選びます。
左側と同じ長さまで縫いミシンを止めます。

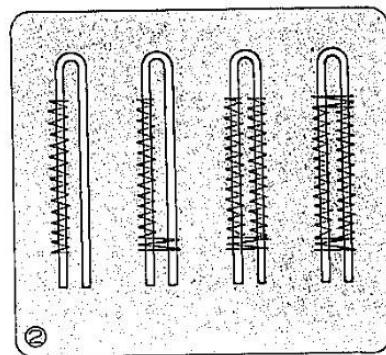


⑥かんぬきの内側にまち針を縫いさして、目ほどきでかがった糸を切らないように切りひらきます。

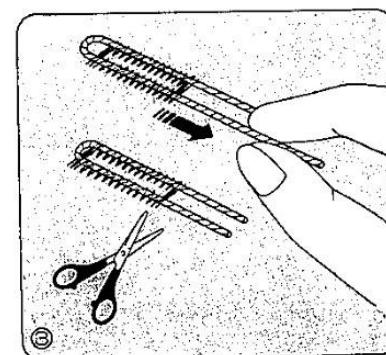
●芯入りボタン穴かぎり



①模様 を選びます。
上糸と下糸を横に引き出してそろえます。
芯糸の輪を押えの後ろ側にあるつのに掛け、押えの下から手前に、平行になるように引き出します。
縫いはじめの位置に針をさし、押え上げをさげま



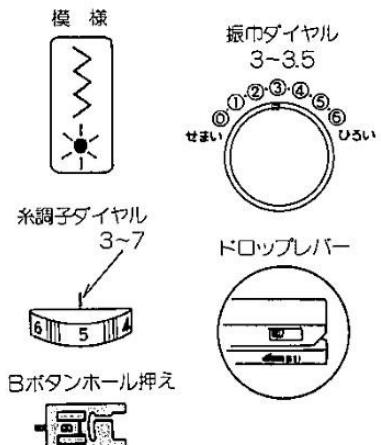
②芯糸を軽く布面に押しつけながら縫います。
縫い方は、29~30ページを参照してください。



③左側の芯糸を引いてたるみをなくし、余分な芯糸を切ります。

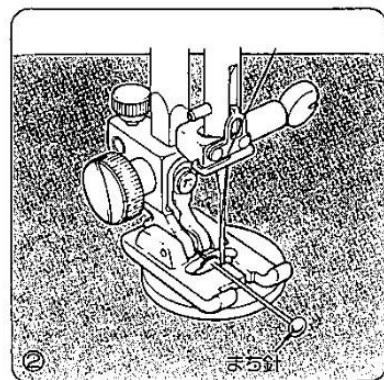
●ボタンつけ

《ミシンのセット》



振巾ダイヤルは、ボタンの穴の中に合わせて、セットします。

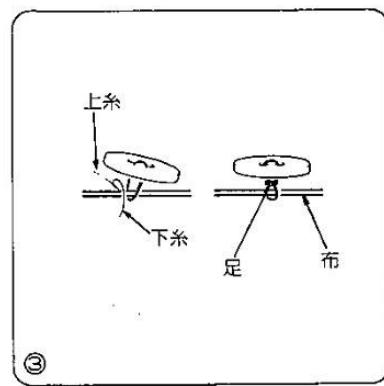
ドロップレバーを左に動かして送り歯をさげます。(さげ方は、23ページをごらんください。)



②押えの中央にまち針をのせ、はずみ車を手前にまわして針が左右の穴にありますことを確かめます。

10針くらい縫つたら、上糸・下糸を20cmくらい残して切ります。

* 縫いはじめの上糸と下糸は、はさみで切り取ってください。



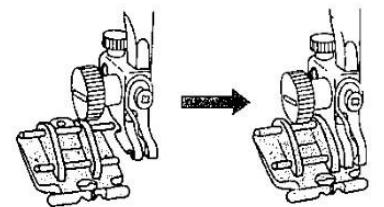
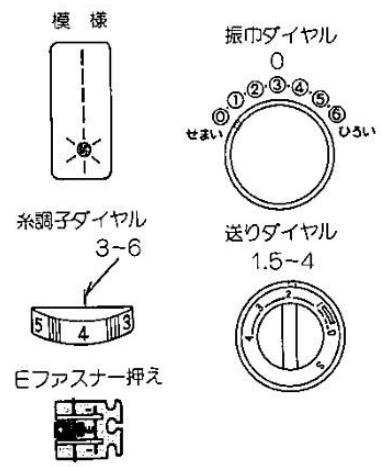
③上糸をボタンと布の間に引き出してから、上糸を強く引いて下糸をボタンと布の間に引き出し、上糸と下糸を浮かせた足の部分にそれぞれ反対方向に数回巻きつけて結びます。

* 縫いあわつたら、ドロップレバーを戻して送り歯をあげます。

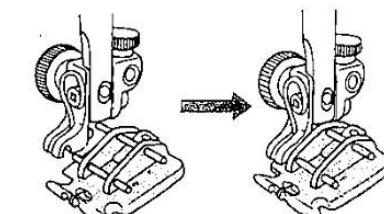
32

●ファスナーフィニッシュ

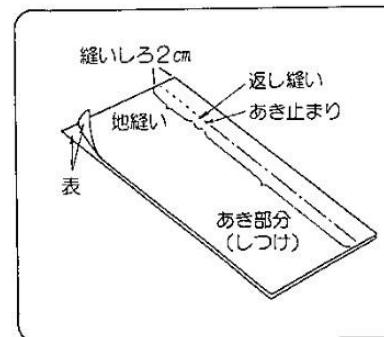
《ミシンのセット》



○むしの左側を縫うときは、ピンの右をホルダーのみぞにとりつけます。



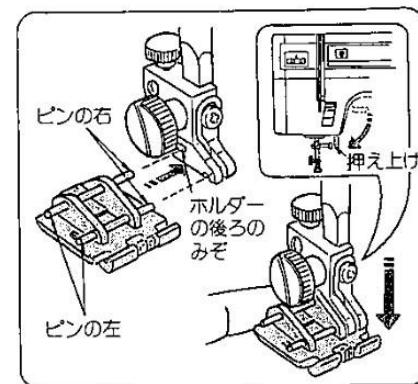
○むしの右側を縫うときは、ピンの左を、ホルダーのみぞにとりつけます。



★準備

○布を中表に合わせて、あき止まりまで地縫いをします。

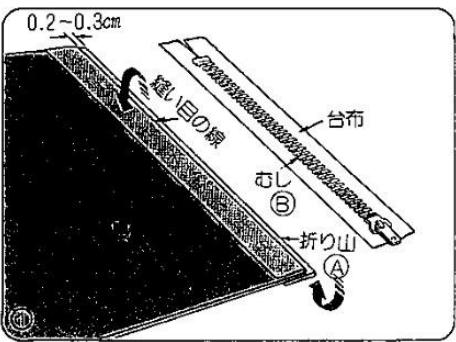
○あき部分は、しつけをします。



★ファスナー押さえのつけ方

○押えの後ろのピンを押えホルダーの後ろのみぞに掛けます。

○指で軽くささえながら静かに押え上げをさげます。

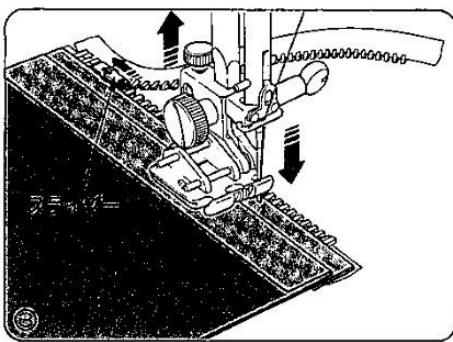


★ 縫い方

①上の布の縫いしろを、縫い目の線で折り返します。

下の布の縫いしろは、縫い目の線から $0.2\sim0.3\text{cm}$ 出して、下に折り返します。

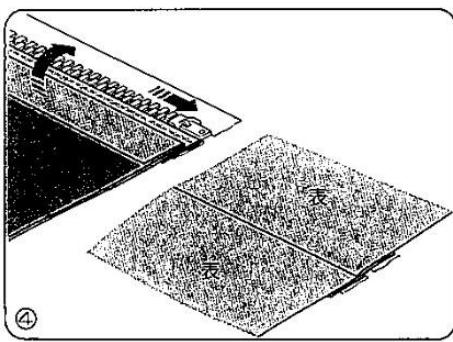
ファスナーのむし③を、折り山④にそわせて、布をファスナーの台布にのせます。



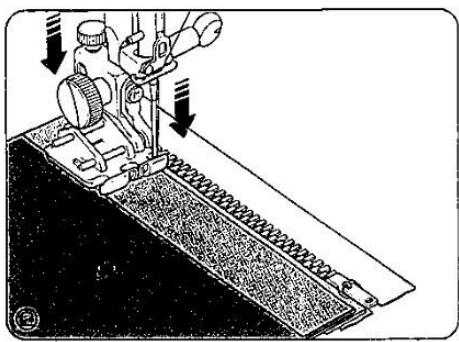
③押えガスライダーにあたる手前で、ミシンを止めます。

上下停針ボタンを押して針をさげ、押え上げをあげます。

スライダーを押えの向こう側にずらし、押え上げをさげて残りを縫います。

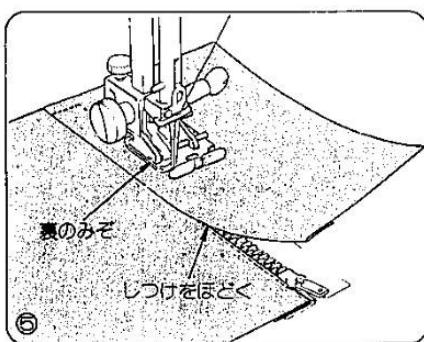


④スライダーをとじ、布をひらいて、表にします。



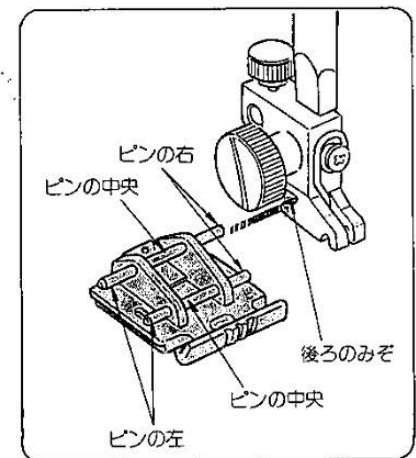
②押えのピンの右を押えホルダーにとりつけます。縫いはじめの位置に針をさし、押え上げをさげて縫います。

34



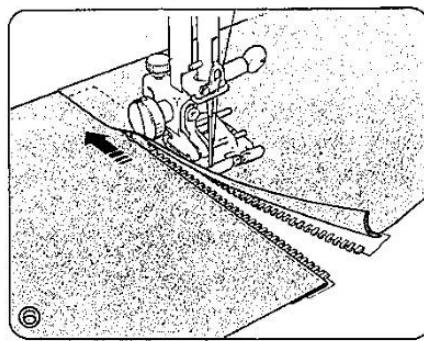
⑤押えのピンの左を押えホルダーにつけかえ、布の上から押えの裏のみぞにファスナーのむしをあてて縫います。
押えガスライダーにあたる手前でミシンを止め、針を布にさしたままで押え上げをあげて、しつけ糸をほどきます。

★コンシールファスナーつけ

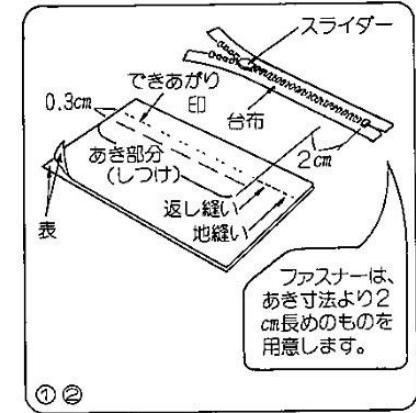


*ミシンのセットは33ページをごらんください。

*むしの左側と右側を縫うときは、ピンの中央に、ファスナーの台布の左側を縫うときはピンの右、台布の右側を縫うときはピンの左にとりつけてください。

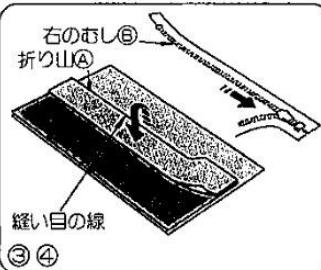


⑥スライダーを押えの向こう側にずらし、押え上げをさげて残りを縫います。



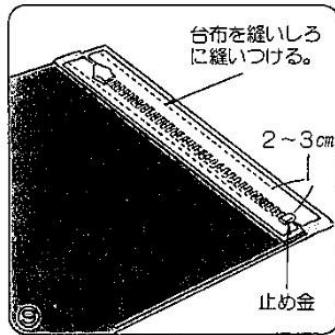
①布を中表に合わせて、あき止まりまで地縫いをします。

②あき部分は、地縫い線(できあがり印)から、 0.3cm 内側に「しつけ」をします。

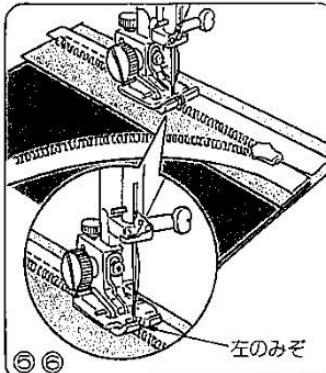


③上の布の縫いしろを、縫い目の線で身頃側へ折り返します。

④ファスナーをひらいて、右のむし③を、折り山Ⓐにあておきます。



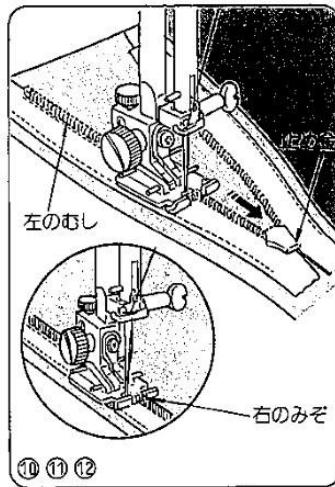
⑨押えのピンの左を押えホルダーにつけかえ、スライダーの下の身頃を左側に折り返して、右側の台布の端を縫いしろに、止め金から2~3cmのところまで縫いつけます。



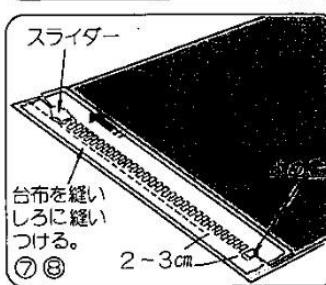
⑤押えのピンの中央を押えホルダーにとりつけ、右のむしを立てて押えの左のみぞに入れ、針がむしのきわを縫うように、押えをやや右によせて押え上げをさげます。

⑥むしをおこしながら、あき止まりまで縫います。

⑦押え上げをあげて、スライダーをとじます。



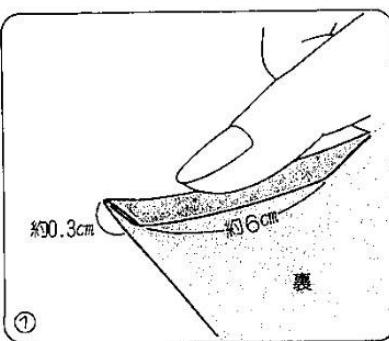
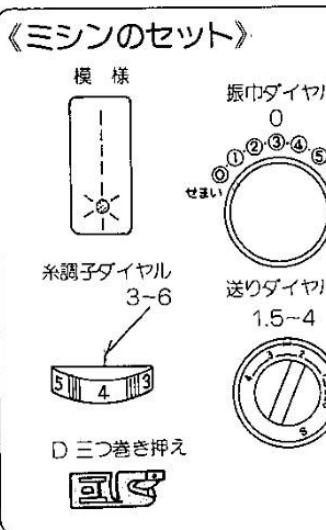
⑩押えのピンの中央を押えホルダーにつけかえ、しつけをほどき、スライダーの下の身頃を右側に折り返して、スライダーを止め金までいっぱいにひらきます。



⑧押えのピンの右を押えホルダーにつけかえ、ファスナーの下の身頃を右側に折り返して、左側の台布の端を縫いしろに、止め金から2~3cmのところまで縫いつけます。

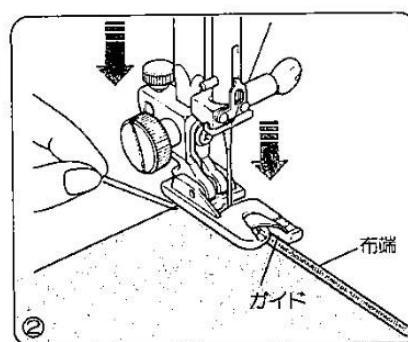
36

●三つ巻き縫い

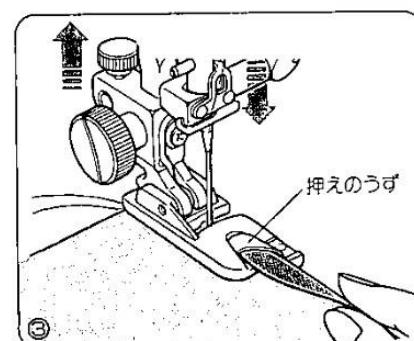


①布端の長さ約6cmを、約0.3cmの巾で2度折りります。

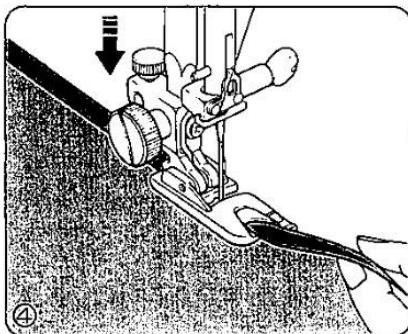
* 折り目のつきにくい布は、アイロンで折り目をつけておくと、縫いやすくなります。



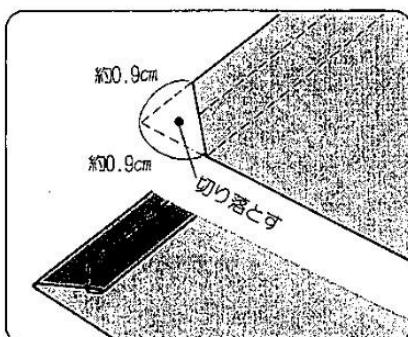
②縫いはじめの部分に針をさし、押え上げをさげます。



③上下停針ボタンを押して針をさし、押え上げをあげて折りまげた布の部分を押えのうずの中に巻きこみます。



④押え上げをさげ、布端を立てて、引きぎみに持ちあげながら縫います。



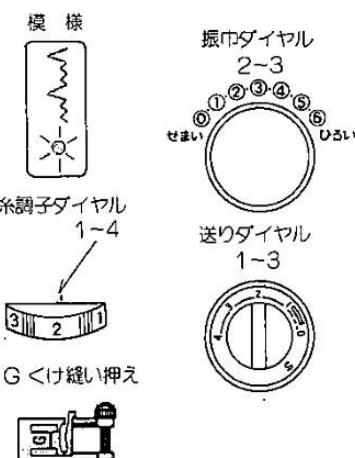
★布端のしまつ

三つ巻き縫いの重なる部分は、布端を切り落として折り合わせ、厚みをうすくします。

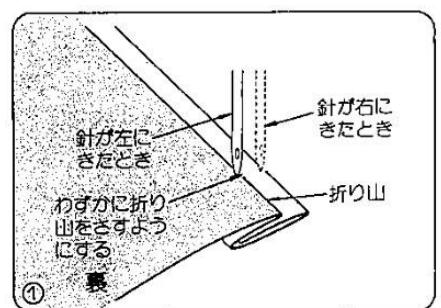
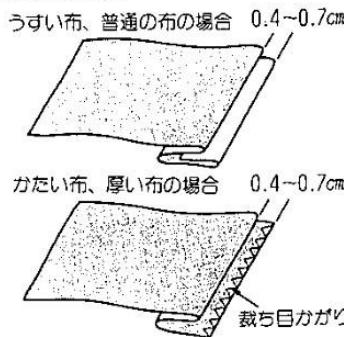
38

●くけ縫い(まつり縫い)

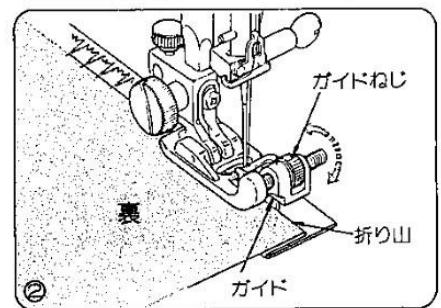
《ミシンのセット》



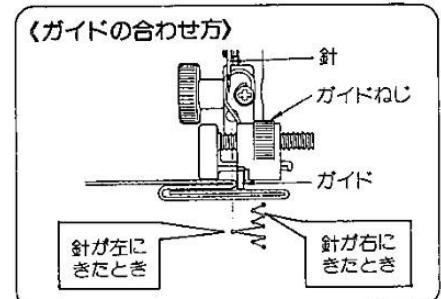
《布の折り方》



①針が左にきたとき、わずかに折り山をさすように布を置いて抑えをさげます。

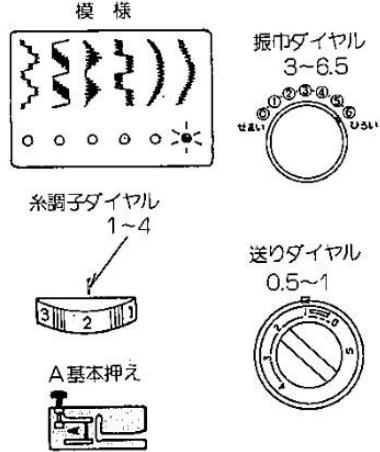


②ガイドねじをまわして、ガイドを折り山に合わせ、針が折り山からはずれないように縫います。



●密着模様縫い

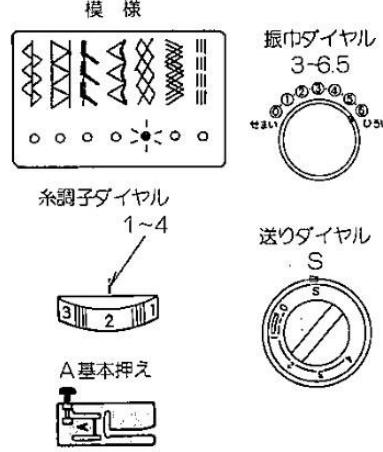
《ミシンのセット》



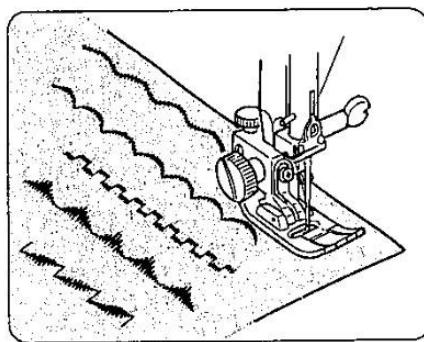
送りダイヤルを合わせるとき、縫い目が細かすぎるとつまることがあるので、試し縫いをして調節してください。

●スーパー模様縫い

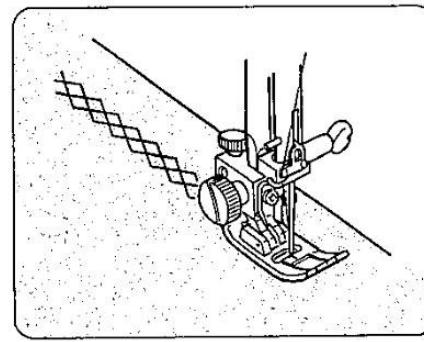
《ミシンのセット》



* 模様が整わないときは、41ページをごらんください。

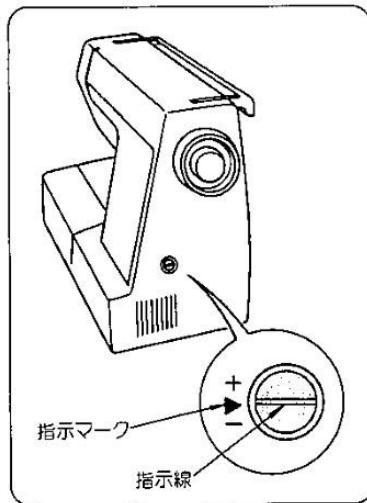


* 布が縮むときは、下に紙を敷いて縫うと、きれいに仕上がります。



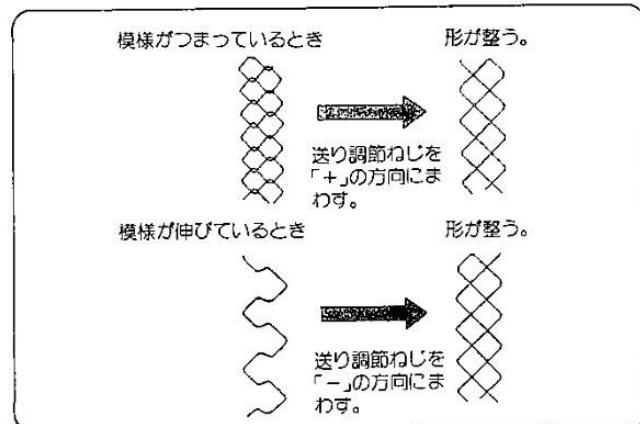
布が前後するので、縫い目がまがらないように注意して縫います。

●スーパー模様の形の整え方



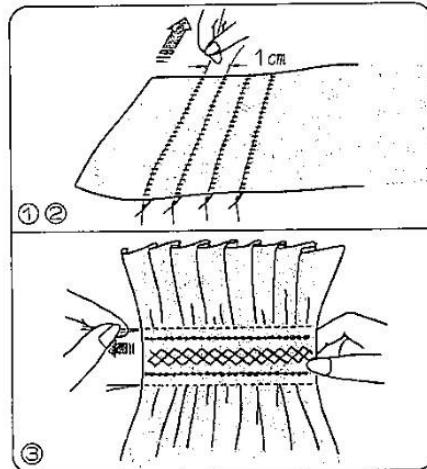
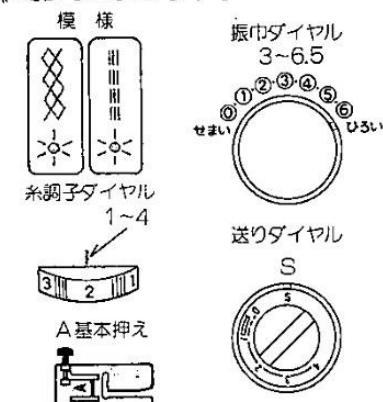
布の種類、枚数、縫いの速さなどによっては、模様の形がくずれる場合もあります。実際に縫うときと同じ条件で試し縫いをしながら、送り調節ねじでつぎのようにして調節してください。

* 標準指示マークと指示線が一致する位置が、模様を正しく縫える目安の位置です。



●スモッキング

《ミシンのセット》



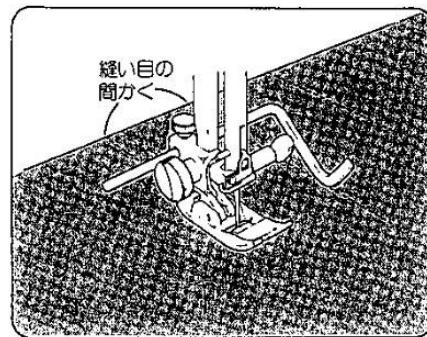
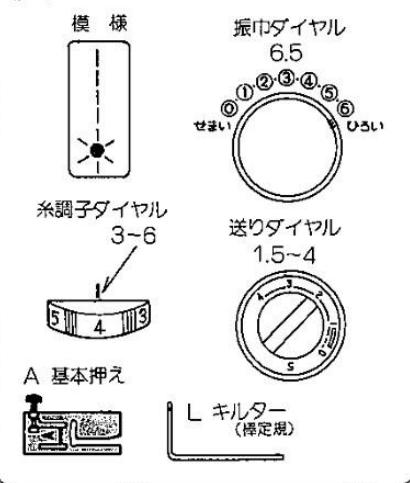
①上糸調子を弱くして縫い目のあらさ 0.3 ~0.4cmの直線を、1cmの間隔で数本縫ります。

②上糸と下糸を布の片側で結び、反対側から下糸を引いて、ひだをよせ、上糸と下糸を結びます。

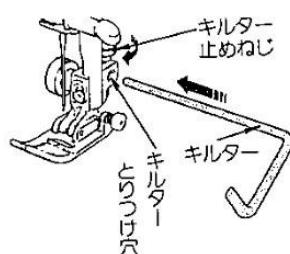
③直線縫いの糸と糸の間に模様縫いをしてから、直線縫いの糸を抜き取ります。

●キルティング

《ミシンのセット》



キルターは、前に縫つた縫い目をたどるのに使います。

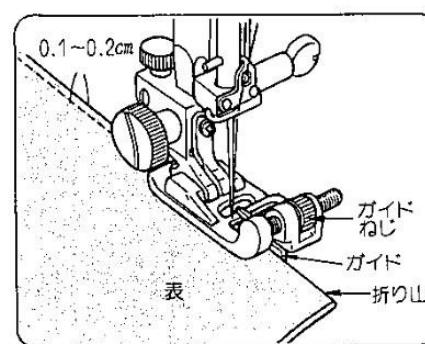
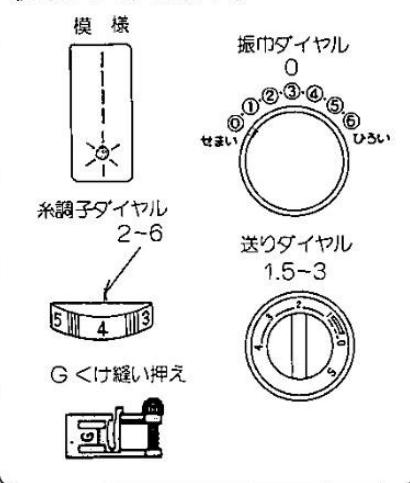


キルター止めねじをゆるめて、キルター(棒定規)を、とりつけ穴に入れ、縫い目の間かくに合わせて、止めねじをしめます。

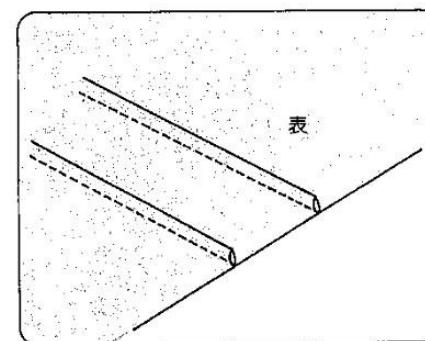
42

●ピンタック

《ミシンのセット》



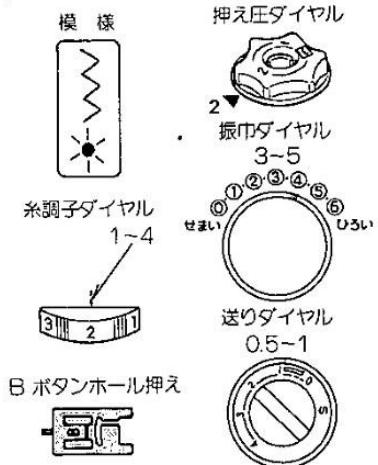
①はずみ車を手前にまわして、針が折り山より0.1~0.2cm内側におりるように布を置いて、押え上げをおろします。



②ガイドねじをまわして、ガイドを折り山に合わせ、縫います。

●アップリケ

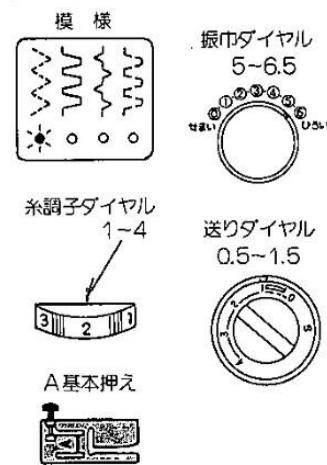
《ミシンのセット》



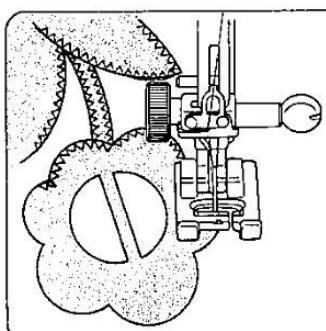
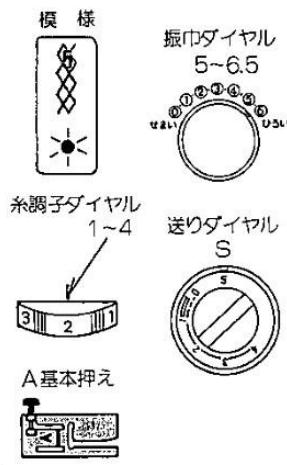
アップリケ布を糊づけするか、しつけで止めます。

●パッチワーク

《ミシンのセット》



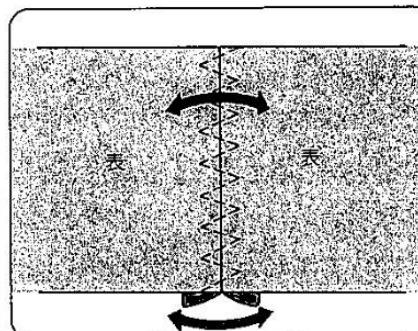
《ミシンのセット》



アップリケ布が、針の左にくるようにして、ふちを縫います。

* 急角度のところで向きをかえるときは、針をアップリケ布の外側にさしたままでかえると、きれいに仕上がります。

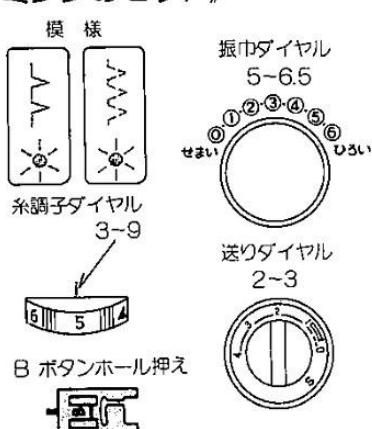
* 縫いあわつたら、押え圧ダイヤルを「3」に戻します。



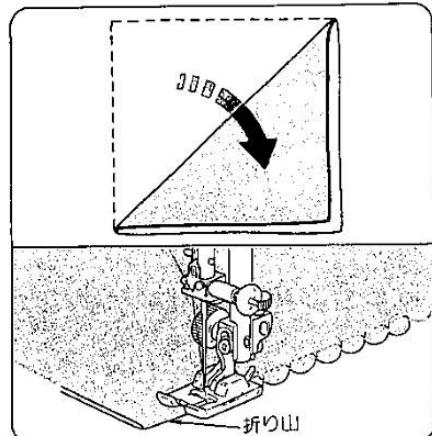
布を中表に合わせ、地縫いをして、縫いしろを割ります。
布の表から、地縫いの線を中心にして縫います。

●シエルタック

《ミシンのセット》



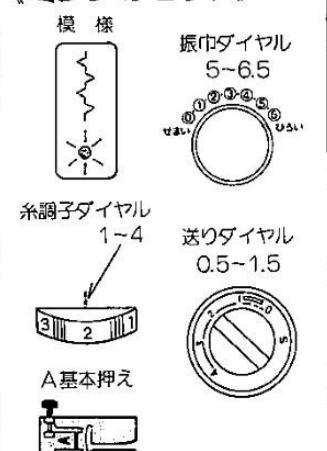
* 糸調子は、シエルタックの山がきれいに出るように強めに調節してください。



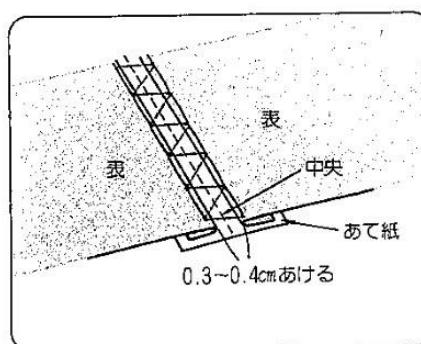
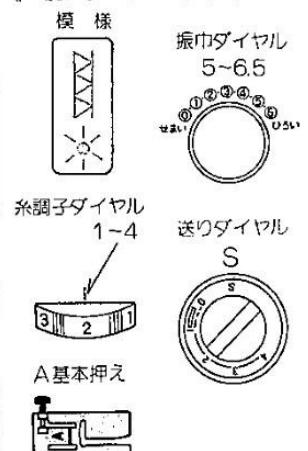
- ① 布をバイアスに2つ折りにします。
- ② 右の針落ちが、布の折り山のきわにありますようにして縫います。
- ③ 布をひらいて、アイロンで山を片側に倒します。

●ファゴティング

《ミシンのセット》



《ミシンのセット》



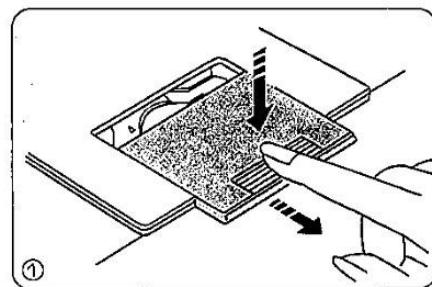
① 布端と布端の間がくを0.3~0.4cmあけて、裏にあて紙をします。
② 布の表から、間かくの中央を中心にして縫います。
③ あて紙をとります。

●ミシンの手入れと調整

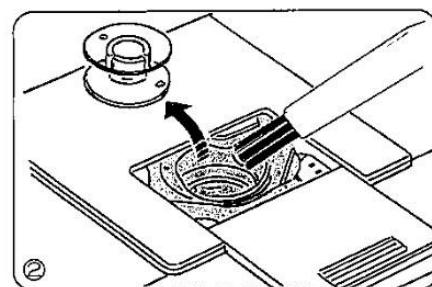
- 使用後は、ゆきとどいた手入れをして、ミシンをいつも調子よくお使いください。
- *手入れのときには、上下停針ボタンを押して針をあげてから、必ず電源スイッチを切り、コンセントから電源プラグを抜いてください。
 - *手入れのときには、説明されている箇所以外は分解しないでください。

糸くずや、ほこりがつくと、不調や故障の原因となりますので、いつもきれいにしておきましょう。

★かまの掃除

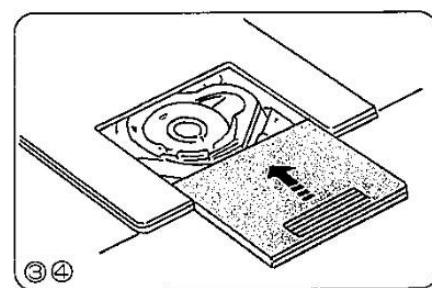


①すべり板の手前を押しながら引いて、すべり板を手前いっぱいまでひらきます。



②ボビンを取り出し糸くずや、ほこりを、ブラシで掃除します。

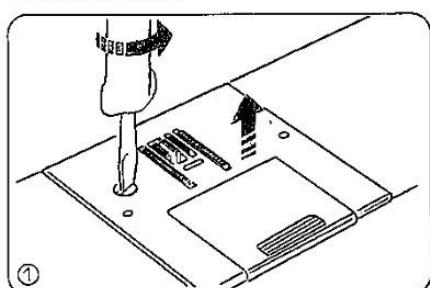
*ブラシで掃除しにくい乾いた糸くずやほこりは、電気掃除機などで吸いとってください。



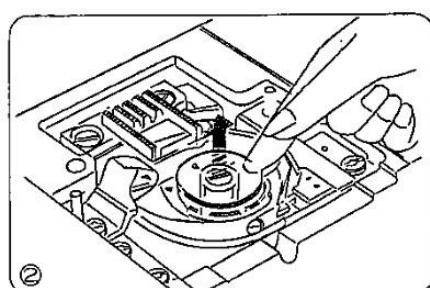
③ボビンを入れます。

④すべり板しめます。

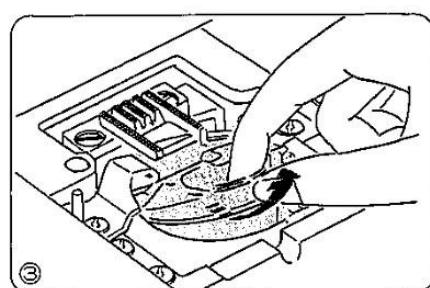
★かまの分解



①針と押えをはずします。針板しめねじをはずし、針板をはずします。

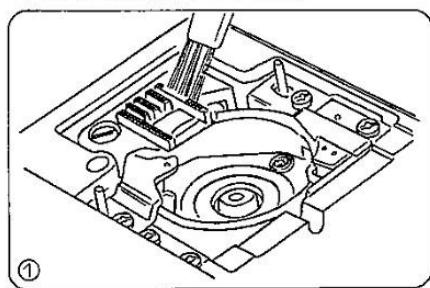


②ボビンを取り出します。

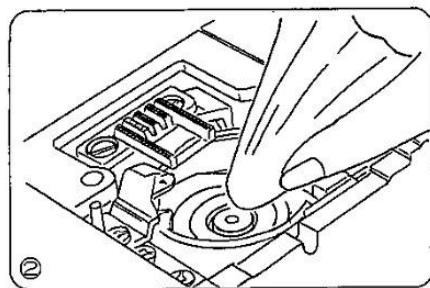


③内がまの手前を上に引きながらはずします。

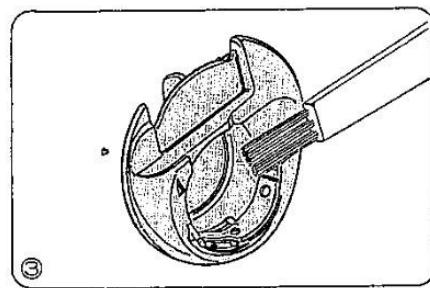
★かまと送り歯の掃除



①送り歯のごみを、ブラシで手前に落とし、さらに外がまを掃除します。

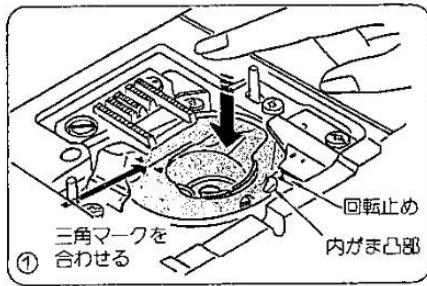


②外がまの中央部を布切れで軽くふります。

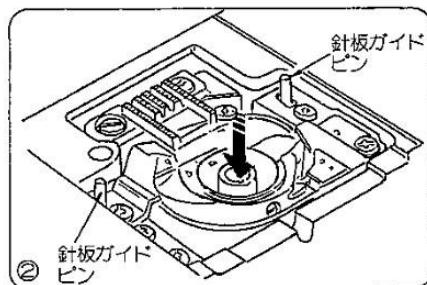


③内がまを、ブラシで掃除し布切れで軽くふります。

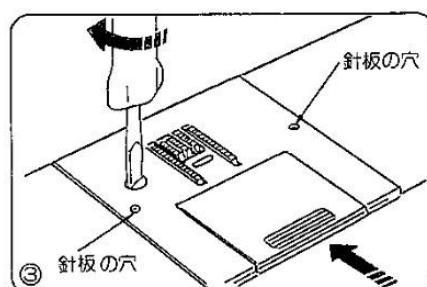
★かまの組立て



①三角マークを合わせ、内がまの凸部が回転止めの左側に入るよう、内がまをとりつけます。



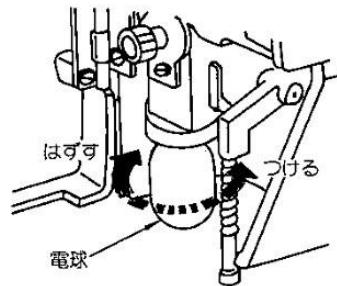
②ボビンを入れます。



③2カ所の針板ガイドピンに針板の穴を合わせて、しめねじをしめます。
*手入れがあわつたら、忘れずに針と抑えをつけてください。

48

★電球のとりかえ



はずすとき……左にまわします。
つけるとき……右にまわします。

*電球（照明用100V-12W）はジャノメミシン直営支店でお求めください。

*電球をとりかえるときは電源プラグを抜いてください。

●ミシンの調子が悪いときの直し方

調子が悪い場合	その原因	直し方
上糸が切れる。	①上糸の掛け方がまちがっていたり、糸が必要以外のところにからみついている。 ②上糸調子が強すぎる。 ③針がまがっていたり、針先がつぶれている。 ④針のつけ方がまちがっている。 ⑤縫いはじめに、上糸・下糸を押さえの下においていない。 ⑥縫いあわつたとき、布を向こう側に引いていない。 ⑦針にくらべて糸が太すぎるか、細すぎる。	13ページ参照 18ページ参照 25ページ参照 25ページ参照 16ページ参照 22ページ参照 17ページ参照
下糸が切れる。	①下糸の通し方が、まちがっている。 ②内がまの中に、ごみがたまっている。 ③ボビンにきずがあり、回転がなめらかでない。	12ページ参照 46~48ページ参照 ボビンを交換する。
針が折れる。	①針のつけ方がまちがっている。 ②針がまがっていたり、針先がつぶれている。 ③針止めねじのしめつけが、ゆるんでいる。 ④上糸調子が、特に強すぎる。 ⑤縫いあわつたとき、布を向こう側に引いていない。 ⑥布にくらべて針が細すぎる。 ⑦布に針がさっているときに、模様選択ダイヤルや振巾ダイヤルをまわしている。	25ページ参照 25ページ参照 25ページ参照 18ページ参照 22ページ参照 17ページ参照 19~20ページ参照

調子が悪い場合	その原因	直し方
縫い目がとぶ。	①針のつけ方がまちがっている。 ②針がまがっていたり、針先がつぶれている。 ③布に対して、針と糸が合っていない。 ④伸縮性のある布や目とびのしやすい布地などのとき、プラー針を使っていない。 ⑤上糸の掛け方がまちがっている。 ⑥押え圧が弱い。 ⑦品質の悪い針を使用している。	25ページ参照 25ページ参照 17ページ参照 17ページ参照 13ページ参照 23ページ参照 針を交換する。
縫い目がしわになる。	①上糸調子が合っていない。 ②上糸下糸の掛け方がまちがっていたり、糸が必要以外の部分にからみついている。 ③布にくらべて針が太すぎる。 ④布にくらべて縫い目があらすぎると、 ⑤押え圧が、合っていない。 *特にうすい布を縫うときは、下側に紙をあてて縫ってください。	18ページ参照 12~13ページ参照 17ページ参照 縫い目を細かくする。 23ページ参照
縫いずれがおこる。	①押え圧が、合っていない。	23ページ参照
布送りがうまくいかない。	①送り歯に糸くずがたまっている。 ②押え圧が弱い。 ③縫い目が細かすぎる。 ④送り歯があがっていない。	47~48ページ参照 23ページ参照 縫い目をあらくする。 23ページ参照

50

調子が悪い場合	その原因	直し方
縫い目に輪ができる。	①上糸調子が弱すぎる。 ②糸にくらべて針が太すぎるか、細すぎる。	18ページ参照 17ページ参照
ミシンがまわらない。	①コンセントに、プラグがきちんとさしこまれていないか、つなぎ方がまちがっている。 ②かまに、糸やごみがたまっている。	7ページ参照 46~48ページ参照
模様が整わない。	①送り調節ねじが合っていない。 ②指定の押えを使用していない。	41ページ参照 (ミシンのセット)参照
ボタン穴かがりがうまくいかない。	①布に対して、縫い目のあらさが合っていない。 ②伸縮性のある布のとき、伸びない芯地を使っていない。	29ページ参照 29ページ参照
音が高い。	①かまの部分に、糸くずが巻きこまれている。 ②送り歯に、ごみがたまっている。	46~48ページ参照 47~48ページ参照

www.golldookht.com

تدوین شده توسط گلدوخت

◎ #golldookht

↗ @golldookht

お客様相談コーナー

★ジャノメミシンでは全国500余の直営支店で万全のアフターサービスをしています。この手びきに書かれている方法で直らないときは、最寄りの支店へご連絡ください。

★お問い合わせの際は、この手びきをお読みになりながらお電話くださると係員も故障の原因や箇所がわかつて便利です。

★お電話いただければ調整係があうかがいしますから、必要以上に分解などなさらないでください。

★アフターサービスについて、ご相談、ご要望がございましたら、本社お客様相談室または、下記の代表支店へ何なりとお申しつけください。

本社・お客様相談室 ☎03(277)2200
〒104 東京都中央区京橋3-1-1

札幌支店 ☎011(261)5671
〒060 札幌市中央区南二条西2-11

仙台支店 ☎0222(21)3591
〒980 仙台市国分町3-5-32

新潟支店 ☎0252(41)8661
〒950 新潟市東大通り2-4-13

東京支店 ☎03(277)2488
〒104 東京都中央区京橋3-1-1

大宮支店 ☎0486(41)2975
〒330 大宮市下町1-6

千葉支店 ☎0472(22)5121
〒280 千葉市富士見町1-14-11

横浜支店 ☎045(251)8523
〒231 横浜市中区長者町5-71

名古屋支店 ☎052(733)5116
〒464 名古屋市千種区内山3-33-14

大阪支店 ☎06(213)1635
〒542 大阪市南区三津寺町20

尼崎支店 ☎06(481)2193
〒660 尼崎市東難波5-7-20

広島支店 ☎082(228)5181
〒730 広島市中区幟町15-9

高松支店 ☎0878(31)1721
〒760 高松市瓦町2-10-14

福岡天神支店 ☎092(712)0721
〒810 福岡市中央区天神3-4-10

鹿児島支店 ☎0992(25)2200
〒892 鹿児島市山之口町1-1